



中國長沙電機公司  
出國/國外專家技術培訓

國際協力事業團  
研修事業部





# 中国実務者招へい計画 中国实业家邀请计划

JICA LIBRARY



1096632(3)

23430

1991

青業

JR

91—722

国際協力事業団

23430

# 信頼と友情への第一歩 信頼与友谊的第一步

平成3年度中国実務者招へい計画  
1991年度中国実務者邀请计划

## 歓迎会 〈欢迎会〉



歓迎のあいさつをする国際協力事業団遠藤理事  
国际协力事业团的远藤理事致欢迎词

中国総団長のあいさつ  
中国代表团总团长致词



なごやかな歓迎昼食会風景  
融合的欢迎午餐会情景

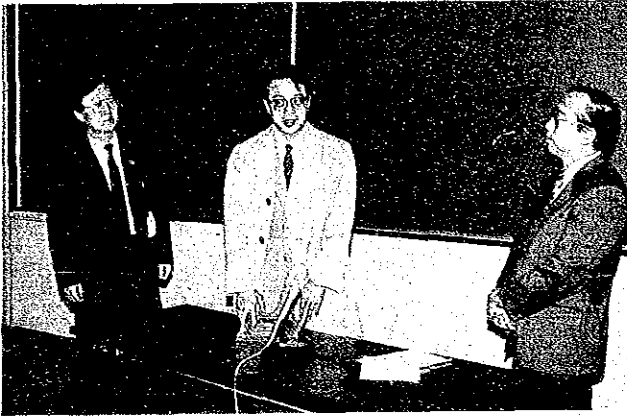


期待に胸をふくらませて  
充满着期待

共通・都内分野別プログラム  
〈共同・東京都内日程〉



楽しく学ぶ日本語授業風景  
日语课上愉快的学习场景

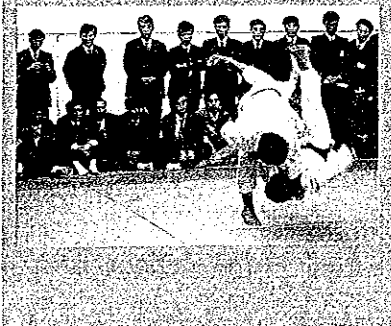


感謝の気持ちをこめて記念品を贈呈  
怀着感激的心情赠送纪念品

熱心に耳を傾ける 国立歴史民俗博物館にて  
热心地听讲解 (在国立历史民俗博物馆)



武道館にて体験演武  
在武道馆体验练武



視聴覚学習機材を体験  
体验视听教学器材

# 合宿セミナー 〈合宿研讨会〉

あっという間に友達になりました  
一会儿便成为了朋友



湖畔で記念撮影 河口湖にて  
在湖畔拍摄纪念照片 (河口湖)



笑顔が輝いています  
处之是笑脸



# 地方分野別プログラム 〈地方日程〉

大阪府庁を表敬訪問  
対大阪府进行礼节访问



貿易会社にて  
在贸易公司



ヘルメットをかぶって工場視察  
戴上头盔在工厂视察





夕食会にて  
晩餐交流会



おいしそう!?!ですね。お茶を体験  
「好喝吗?不错吧。」体验品尝抹茶

## ホームステイ・見学旅行 〈民宿、視察旅行〉

家族で犬山城を訪れました  
以家庭为单位访问犬山城

兄弟でポーズ  
兄弟一起摆好姿势

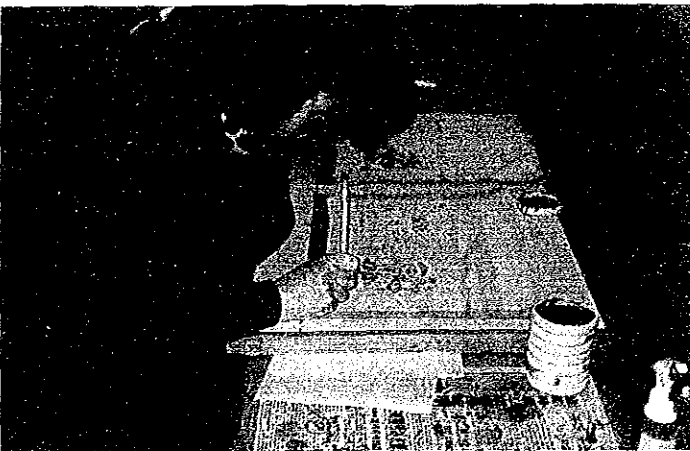




瀬戸大橋をバックに  
以瀬戸大橋为背景

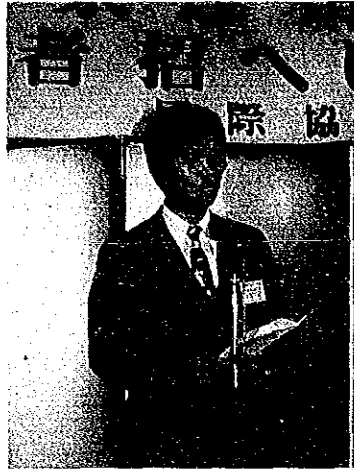


清水の舞台にて 京都  
在清水舞台（京都）



記念のハンカチを染める 京都・古代友禅苑  
染纪念手帕（京都 古代友禅苑）

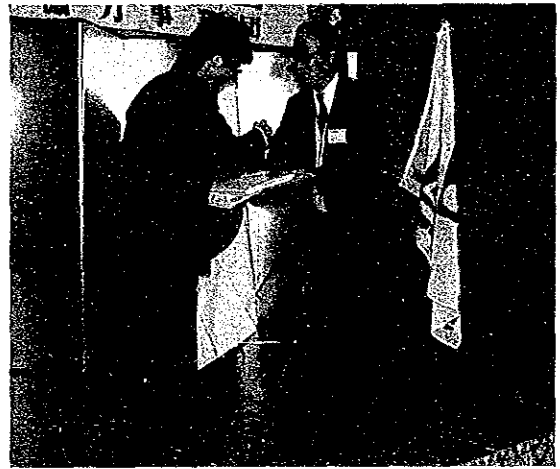
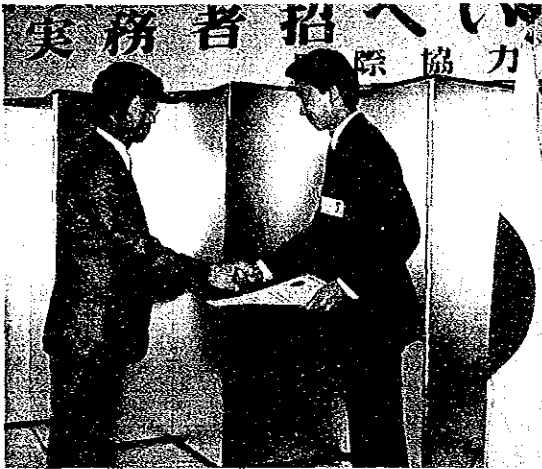
歡送会  
〈欢送会〉



国際協力事業団諏訪研修事業部長のあいさつ  
国际协力事业团諏访研修事业部长致词



団長のあいさつ  
团长致词



グループ代表者に参加証とアルバムが授与される  
授与小组代表参加证和影集

1カ月間お疲れさまでした。乾杯！  
一个月辛苦了 干杯



記念品を交換  
交换纪念品





住所を書いて下さい。  
これからもよろしく  
请写下地址，今后也还请关照



思い出話に花を咲かせて  
谈不完的美好回忆



また会いましょう！  
再见吧

# 中国実務者招へい計画



# 目 次

## 序

### 1. 中国実務者招へい計画

(1)事業の概要 ..... 7

(2)実施協力団体と実施県 ..... 9

2. 招へい青年の印象 ..... 11

3. 合宿セミナー参加日本青年の声 ..... 21

4. ホストファミリーの思い出 ..... 25

### <実績資料>

1. 現地プログラム実施日程 ..... 28

2. 中国実務者招へい計画実績 ..... 28

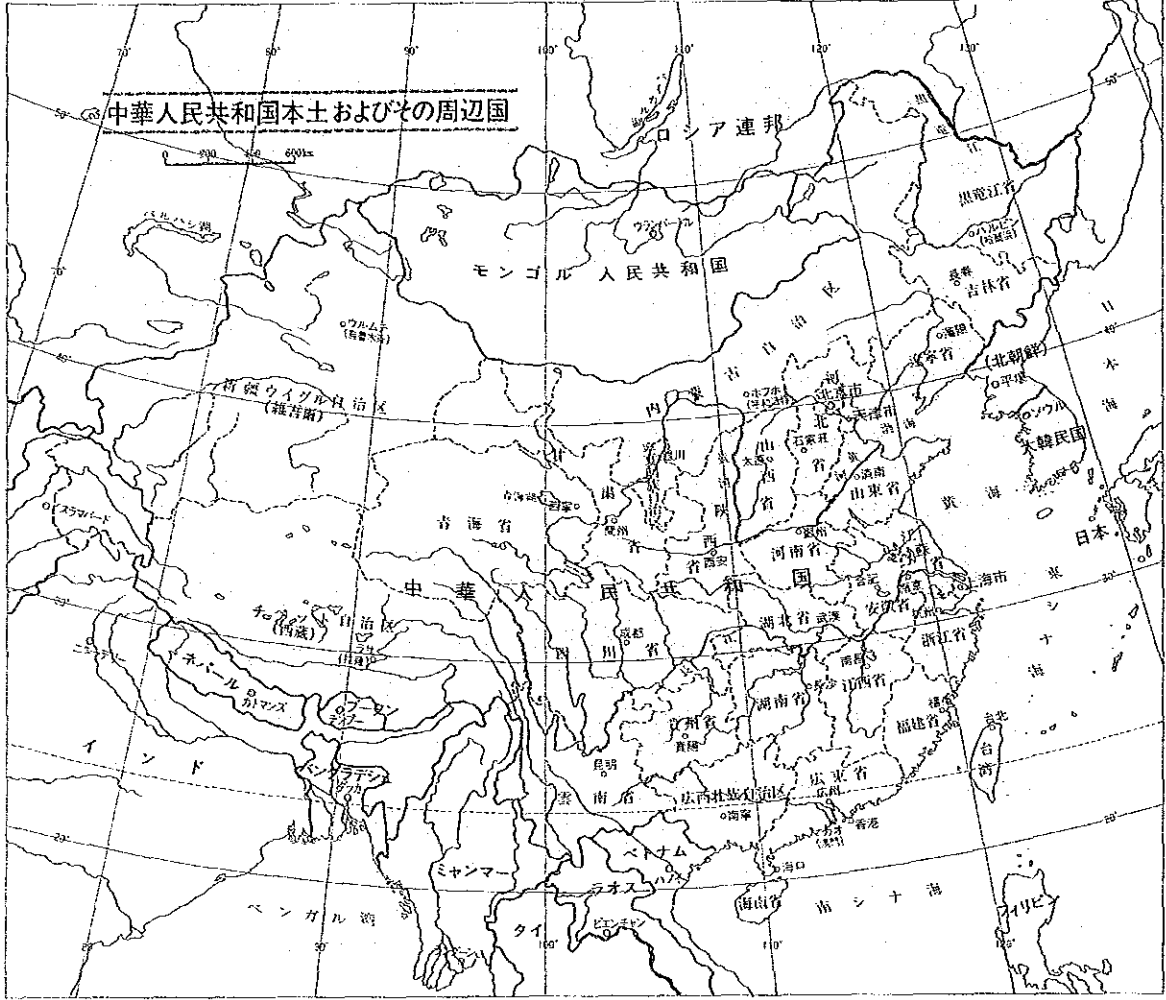
3. 実施日程 ..... 29

4. 平成3年度青年招へい事業受け入れ実績一覧 ..... 33

5. 青年招へい事業実施協力団体等一覧 ..... 34

<中国青年名簿> ..... 71

中華人民共和国本土およびその周辺国





# 1. 中国実務者招へい計画

## (1) 事業の概要

### 1) 事業の目的

「中国実務者招へい計画」は、日本と中国の実務者の交流を通じ、中国の近代化建設を支援するとともに、21世紀に向けて、より良き日中の協力関係を構築するために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

### 2) 実施方法

#### ①招へい人数

平成3年度は100名を同時期に受け入れる。

#### ②招へい対象者

下記分野における指導的立場にある18～35歳前後の青年

##### (i) 地域産業技術実務者 25名

農業及び農村工業の技術開発とその普及・企業化を通じ、地域振興に従事している者等を中心に招へいする。

##### (ii) 産業基盤整備実務者 25名

産業基盤（インフラストラクチャー）整備を通じ、地域振興に従事している者等を中心に招へいする。

##### (iii) 経済・貿易実務者 25名

経済運営や貿易実務に携わり、経済改革を進めている者等を中心に招へいする。

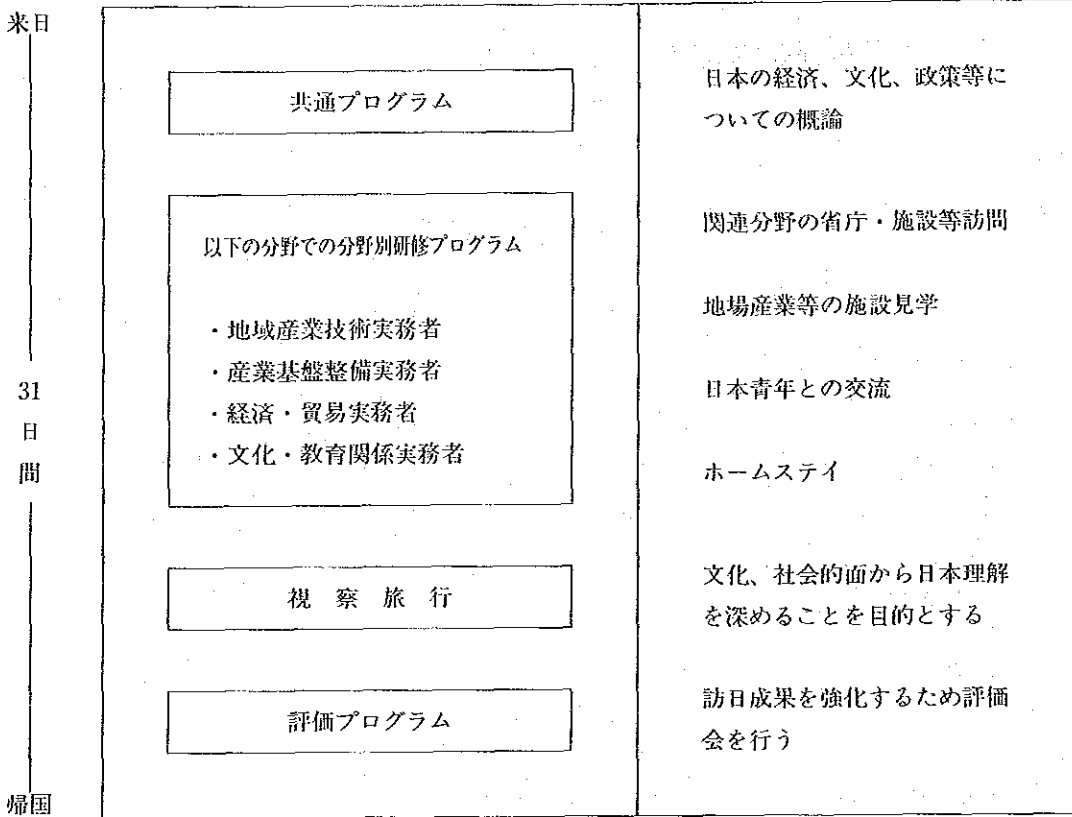
##### (iv) 文化・教育関係実務者 25名

文化振興・保護に従事している者等を中心に招へいする。

#### ③招へい期間及び時期

11月19日から12月19日までの1カ月間

### 3) プログラム概要



### 4) 受け入れ体制

本計画を円滑に実施するため次の2委員会を設置する。

#### ①関係省庁調整連絡会議

- (i) 任務：本計画の実施及び運営に係わる基本的事項につき協議。
- (ii) 構成メンバー：

外務省経済協力局技術協力課	農林水産省経済局国際部国際協力課
アジア局地域政策課	労働省大臣官房国際労働課
大臣官房文化交流部文化第二課	自治省大臣官房企画室
総務庁青少年対策本部	国際協力事業団
文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室	

#### ②実行連絡調整委員会

- (i) 任務：実行計画の運営、分野別プログラムの実施及び各プログラム間の連携につき協議し、プログラム実施上の問題につき、国際協力事業団に対し助言。

(ii) 構成メンバー：関係省庁より推薦された民間の実施協力団体。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| (社)青少年育成国民会議     | (財)国際交流サービス協会    |
| (財)世界青少年交流協会     | (財)青年海外協力協会      |
| (財)日本国際生活体験協会    | 日本青年団協議会         |
| (財)全国農村青少年教育振興会  | (財)日本ユネスコ協会連盟    |
| (財)日本経済青年協議会     | (財)日本ユース・ホステル協会  |
| (財)勤労厚生協会        | (財)日本友愛青年協会      |
| (財)ユースワーカー能力開発協会 | (財)国際協力サービス・センター |

### 5) 実施運営分担

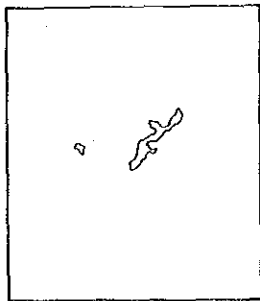
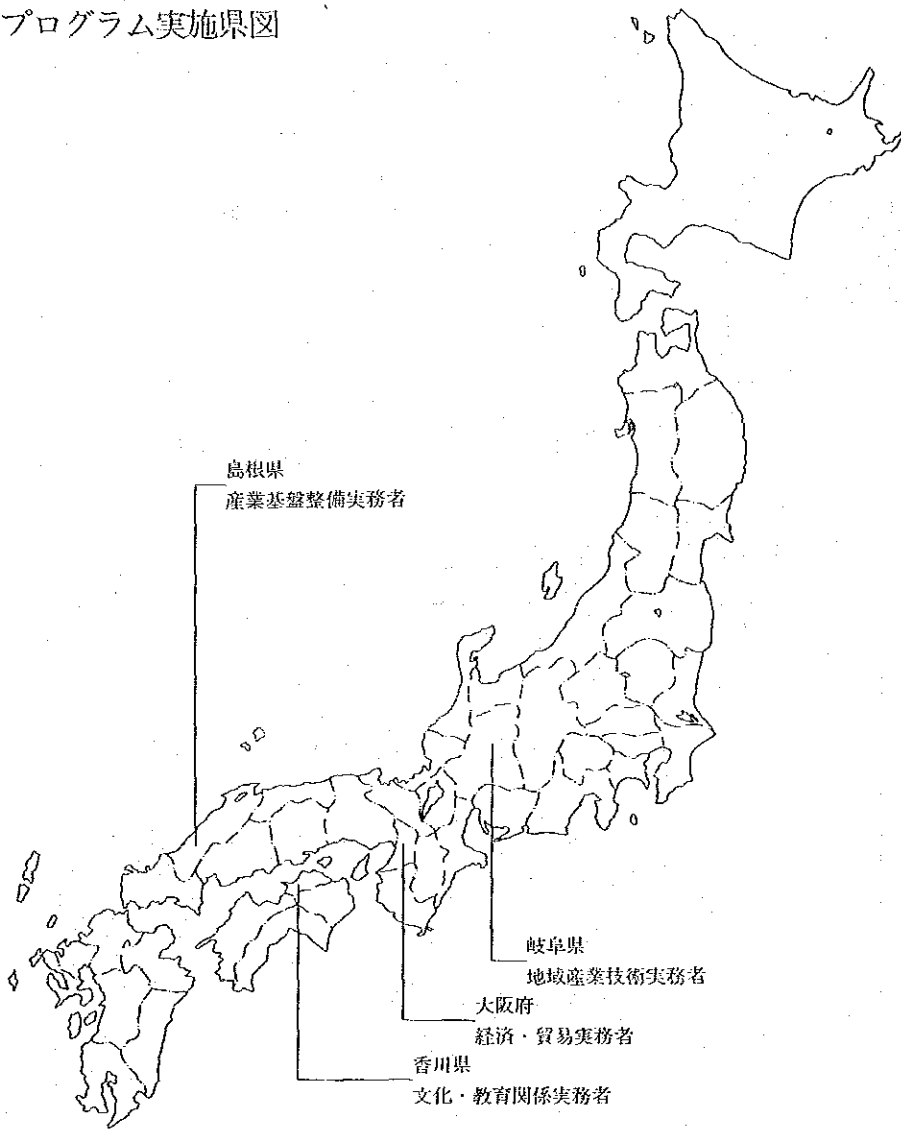
	プログラム 監 理	プ ロ グ ラ ム 実 施		食事・宿舎の 手 配
		連絡調整	実施	
共通プログラム (都 内)	国際協力事業団	国際協力事業団	国際協力 サービス・センター	国際協力 サービス・センター
都内分野別 プログラム (都 内)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
合宿セミナー プログラム (東京近郊)		実施協力団体 地方協力団体 (国際協力事業団 国内支部)	地方協力団体 (国際協力事業団 国内支部)	地方協力団体 (国際協力事業団 国内支部)
地方分野別 プログラム (ホームステイを含む)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
見学旅行 (広島、京都等)		国際協力事業団	国際協力 サービス・センター	国際協力 サービス・センター
評価プログラム (都 内)				

(注) 地方分野別プログラムは、地方公共団体の指導と協力を得て実施する。

### (2) 実施協力団体と実施県

分野別	人数	実施協力団体名	実施県
地域産業技術実務者	25	中央青少年団体連絡協議会	岐 阜
産業基盤整備実務者	25	青少年育成国民会議	鳥 根
経済・貿易実務者	25	ユースワーカー能力開発協会	大 阪
文化・教育関係実務者	25	世界青少年交流協会	香 川

# プログラム実施県図



## 2. 招へい青年の印象

### 友情を育んだ旅



韓 万景

地域産業技術実務者グループ

「21世紀のための友情計画」に参加できて、とても光栄だと思っている。このような機会を与えて下さり、また行き届いた配慮をして下さった国際協力事業団に、この場を借りて感謝の意を申し上げたい。

私は企業の経営に携わっているが、来る前から、日本の進んだ技術と優れた経営方法について聞いていた。11月19日に日本の土を踏んだときから、生活のテンポの速さに感心した。そのほかにも武道館やいくつかの企業の見学を通して、技術と経営方法にとどまらず、日本人の精神や従業員の結束力こそ私たちが日本に学ぶべきではないかと思うようになった。中国も日本も長い歴史をもち、かつて中国の文化が日本に大きな影響を与えたが、現在多くのよいものが失われてしまった。もし中国が自分のよいものを受け継ぐと同時に、外国の優れたものを吸収することができたら、近い将来に大きな発展を遂げるだろうと私は信じている。

そろそろ帰国の日が迫ってきた。1カ月の訪問で、企業の管理方法を学び、日本の文化や生活を体験することができ、私の得たものは大変大きかったが、とりわけ合宿やホームステイを通して、日本の人々と築きあげた友情が私の一生の宝になるだろう。

29日、合宿に参加するため、浜名湖に向かった。言葉の壁があり、おそらくコミュニケーションはとれないであろうという私の思いをよそに、3日

があつという間に過ぎてしまった。期間中、私は同じグループにいる国府田さん、佐野さん、正田さん、内川さんと実にいろいろなことについてディスカッションした。企業の経営管理、新製品の開発、営業など仕事のことから、青年の趣味・恋愛・結婚・風俗などの社会事情まで、日中それぞれの状況を話し合ううちに友情が生まれ、別れ際には、私たちは肩を抱きあい、涙を流しながら、また会うことを誓った。

そして、ホームステイも私にとって、忘れがたいできごとになった。日本に来る前に、ホームステイに対して、恐れのおもひを抱いていた。だから、一家庭にふたりの青年が入ると聞いて、助かったと思った。

私のホストファミリーは林新太郎さんであるが、初対面のとき、林さんの中国語が私の日本語のレベルと同じぐらいで、「謝々(ありがとう)」「再見(さようなら)」などのあいさつしかできないということに気づき、ずっと不安でしかたがなかった。

その日の午後、林さんは早速、中部板南株式会社の見学に連れて行ってくれた。私たちは簡単な日本語、中国語、筆談と身ぶり手ぶりで会話を交わしたが、基本的に互いに理解することができた。それで、私はだいぶ自信がついた。そのあと、林さんの養殖場を見学し、夜はそれぞれ自分のこと、家族のことで話が盛り上がった。林さんが1973年に「日本青年訪中団」のメンバーとして中国を訪れ、周恩来総理にも会ったことがあると聞き、私たちはいっそう親しくなり、話題も自然に多くなった。確かに言葉は通じないが、私たちは心と心が通じあった喜びに浸った。

翌朝の6時に、林さんと私たちは大垣水産青果

株式会社に向かった。それから、夜7時に帰宅するまで揖斐川工業株式会社など6カ所も見学に連れていってもらった。その目的は、これから技術などの面で協力できるように、できるだけ日本企業のあり方を私たちに見せ、日本の生活を体験させるところにあったようである。

短い1日半のホームステイであったが、私は中日人民のきずなの深さにおおいに感動した。

1カ月の訪問が終わりに近づくと、時の経つのがますます速く感じられ、日本を去りがたい気持ちになってきた。そして、中日両国人民、青年の友情が表面だけにとどまらず、社会制度の違いを超え、深く根を張りつつあることを実感した。「21世紀のための友情計画」が将来にかならずや大きく花開き、実を結ぶに違いないであろう。

## 平和への祈り



尚 慶華

地域産業技術実務者グループ  
神の思し召しともいうべき  
か、友好の使者、中国青年百  
人訪日団のメンバーとして、

今回日本を訪れることができた。世界各国の民族とくに中国と一衣帯水の間柄にある日本を知るとは私の長年の願いであり、それが国際協力事業団のおかげで、今回とうとう実現した。

中国にはこんな話が伝わっている。かつて神様が不老長寿の薬を求めたため、えりすぐった子供500人を大臣のもとと海を渡らせた。航海途中、船は荒波に襲われ転覆、大臣は命を落としたものの、海の神に救われた子供たちは日本に送られ、中国の文化とともに、日本で子供を生み育て、それが今につながっているというのである。日本と中国は1本の木になる2個の果実のようなもの。この話を今回の訪日でなんとなく実感した。

キラキラと闇に輝くあかりのなか、一行百人は

日本に降り立った。日本独特のかつ中国と極めて似かよった文字に気を引かれ、各所で見かける仮名交じりの説明には違和感を感じることもなく、同時に何ともいえない気持ちの高ぶりを覚えた。日中両国は同文同種ということに納得した。こんな笑い話がある。「中国人は日本語を学んでも学ばなくとも、おおよその見当がつく」と、どうやらこの話は当たっているようだ。このような具合で異国の地、日本にすぐ親しみを覚えたのであった。

相手を理解することが心と心の交流のもととなり、心と心の交流が友情の橋渡しをする——友情と平和の願いを携えての日本訪問が始まった。

工場、農場、町中といたるところ日本人の勤勉さを目にし、交通機関の発達、よく整備された環境、高層ビル群には日本人の勤勉さの成果をみる思いがし、歓迎会、討論会、合宿セミナーでは日本人の人なつっこさと思いやりを肌で感じる事ができた。そして、これらすべての思いをホームステイを通し、さらに深くした。

12月7日午後、大垣市文化会館に集合したメンバーはホストファミリーと対面後、三々五々各家庭へと向かった。私の滞在先は早野尋司さん。性格の故かそれとも言葉が通じないからか、早野さんは口数も少なく、車を家へと走らせた。早野さん一家の歓迎ぶりは大変なもので、寝間着、生活用品、遊び道具等こまごましたものから、ホームステイ中の活動にいたるまで、微に入り細に渡るお世話をしてくれた。私たちの交流手段は言葉・文字が半分、そして心と心の触れあいが半分。漢字、英語、ゼスチャーを交えての交流で情報を交換しあい、お互いの理解を深め友情のきずなを強めることができた。

2日間のホームステイはあっという間だった。ホストファミリーの家庭を去るその日の朝、早野さんは日本式中国語で「私の祖先があなたの交通安全を守ってくれる」と書いた一枚の紙切れを私に見せると仏壇の前で手を合わせて、私たちの無

事安全の帰国を祈ってくれた。早野さんの思いに目頭を熱くしたのはいうまでもない。日本のごく一般的な早野さん一家を通して、日本人の優しさ、思いやり、あふれる心根と、私たち中国人への熱き友情の思いをひしひしと感じたのだった。

「21世紀のための友情計画」の目的が実現しないわけがない。異国の地に数多くの友人を持てたことは、本当にうれしいことである。私も自分なりにこの友情を育てていこうと思う。

友情と平和——平和のために友情を深め、友情のために平和を守っていくのである。友情と平和の敵、それは戦争。戦争のためわれわれ人類は過去にどれほどの代価を払ったことだろう。

原子爆弾により破壊された建物、ボロボロに焼けた服、焼け残った樹木、焼けただれた肌のままなすすべもなく町をさまよう人々、死んだ生徒を腕に抱き泣きくれる若き女性教師——美しい町広島で深い戦争の傷跡を目にした私のショックは、相当なものだった。平和への願いを込めて折られた千羽鶴、中学生が捧げたものだそうだが、戦争経験のない世代には戦争の真の恐ろしさは理解しがたいものがあると思う。

15万人を死に導いた原爆の恐ろしさを目にした私の脳裏には、過去に侵略を受けた中国の姿が浮かんできた。南京大虐殺でも多くの尊い生命が奪われたのである。戦争が中国人にもたらした苦難を思うと戦争への怒りが込み上げてきた。人間はなぜ戦争をするのだろうか？ 何故兄弟であるはずの人類が互いに殺し合いをしなければならないのだろうか？ 友好の隣国をなぜ侵略するのだろうか？ 何も理由はない。ただ、人間が悪かなだけなのだ。苦しみしかあとには残らないというのに……。

戦争で亡くなった罪なき人々の霊を慰め平和を希求する灯火、世界に愛と平和を伝えるハトの群れ。私たちひとりひとりともに平和を祈り、努力をし、この地球から戦争をなくしたいものである。日中両国の永遠に変わらぬ友好、平和のため

にも——。

## 日本について



劉 拓

産業基盤整備実務者グループ

1. 日本人は中国人に友好的で温かかった。私たちは行く先々で、日本の友人の温かい、礼を尽くしたもてなしを受けた。彼らは、積極的に客にその土地の風土や人情、生活習慣を紹介するとともに、中国の状況も知ろうという意欲にあふれていた。
2. 日本は急速に経済発展し、世界の経済大国となった。工業の自動化レベルは高く、製品のモデルチェンジも早い。農業は大部分の生産過程において、すでに機械化を実現し、ひとりあたりのGNPは世界でも上位を占め、人々の生活は経済的に豊かである。
3. 日本人の就業態度は、真面目で、合理的、効率的で、時間に厳格である。ひとつひとつの仕事について、比較的綿密に計画を立て、しっかりと実行するので、だらだらと引きのぼすようなことはめったになく、てきぱきとした仕事ぶりである。
4. 日本人は進取の気象に富んでいる。彼らは伝統文化を重んじているが、そっくりそのまま残すとか、捨て去って発展するとかではなく、外来の文化や技術も重視して、消化吸收し、新しく自分のものにして使いこなしている。
5. 日本人は強いナショナリズムをもっている。若い人は「日本はアメリカを乗り越えたあとどういう方向に向かうのか」と心配している。官庁は経済的に弱い分野、たとえば農業に大きな投資や補助を行い、国民も国の主張を支持しているようである。

## 訪日感想



趙 貴生

産業基盤整備実務者グループ

このたびの日本訪問では深い印象とさまざまな思い出が残った。まとめていえば次の

ようになる。

1. 日本は工業が発達し、経済力のある国であってアジアの発展途上国の経済発展に貢献できる力を持っている。
2. 日本は社会生活条件が整備され、環境が美しく、大変衛生的で治安もよく、都市と農村の格差があまりない。
3. 日本人民は中国人民に友好感情を抱いている。それは島根に滞在中に身をもって感じた。
4. 日本が経済発展を遂げたのは国民が勤勉で効率よく時間をつかい、競争した結果である。
5. 日本人の仕事は計画的で緻密である。それはわれわれの今度の訪日プログラムのなかで深く感じた。JICAばかりではなく、青少年育成国民会議や島根県青友会の多くの方々がわれわれのこのたびの訪日の成功のために、多くの行き届いた仕事をし、大変な努力を払い、日中友好、そして「21世紀のための友情計画」に貢献した。ここに心から感謝の意を表すとともに、日中の友好が永遠に発展していくことを祈念する。

## 訪日随想



呂 峻峰

経済・貿易実務者グループ

私は中国青年実務者訪日団の一員として、約1カ月日本で過ごした。今この知らない、

またよく知っている国を離れるにあたり、私は何か忘れ物をしたような感じがしている。この数日

間私はずっとそれを探し求めていた。そして、ついにホームステイが終わったとき、ホストファミリーと手を振り別れるとき、キラキラ光っている涙のなかに、この忘れ物は日本人民との間に結んだ友情であることがわかった。

訪日のプログラムが始まると、日本側の数人のコーディネーターは至れり尽くせりのお世話をしてくれ、彼らのご苦労の汗が私たちの日本滞在中の日々を快適なものにしてくれた。見学訪問の余暇、私たちは数人のコーディネーターと歌を歌い、踊りを踊った。加藤さんの仕事に対する責任感、松田さんの温かい親切、ユーモラスな福山さん、真面目な高尾さん、私たちは忘れがたい。とくに福山さんの話は今でも耳に残っている。それは、12月4日、広島平和記念公園を見学したとき、福山さんの顔からはいつものいたずらっぽい笑顔が消え、沈痛な表情で皆に次のように語った。「ひとりの日本人として、日本軍が第2次世界大戦中、中国人民に与えた非人道的な行為に心からお詫びする……」。福山さんの話は日本人民が平和を愛する気持ちのあかしではないか？ これこそ本当の中日両国人民の友情の根源ではないか？

絵のように美しい富士山麓で、私たちは日本青年と自由気ままに各自の仕事、学習および生活について交流し、悩みや愉快なことについて楽しく語り合った。短い数日間であったが、私たちは多くの日本青年と友達になった。合宿が終わり、東京駅で広島に行く列車を待っているとき、合宿で知り合った米山さんと偶然に会った。うれしさのあまり、私は世界は大きいようであって、こんなに小さい、この狭い空間の出会いに、何か意味があるのではないかと考えた。米山さんも大変喜んで、すぐみかんを買ってきてくれて、私たちに下さった。米山さんが立ち去る後ろ姿を眺め、友情の糸が私たちをしっかりと結びつけていると感じた。

ホームステイは、私たち訪日プログラム最後の活動であった。私は皆と同じようにうきうきし、



また緊張もした。松本さん一家と対面したとき、なぜかわからないが、長い間会っていない身内と再会したような感じがした。松本さんの家で、私が中国から持ってきたお土産を渡したとき、彼らの子供のような笑顔を見て、私は温かいわが家に帰ってきたようであった。私たちは言葉での交流はできなかったが、筆談や表情で共通の話題を見つけた——三国時代の歴史人物や物語、毛沢東、朱徳の偉大さ、李白、杜甫の詩……2泊3日のホームステイはあっという間に終わったが、私たちはさようならを言いたくなかった。なぜなら、深い友情がここでまたつくられたからだ。これは松本夫人が言うように、私たちは言葉は通じなかったが、心は通じあったおかげだと思う。

1カ月の訪問交流を通じ、私たちと日本人民の心と心が通じ合っていることがつくづくわかった。しっかりと結びついた私たちは、この切っても切れない友情を永遠に、子々孫々に伝えていきたい。

## 忘れがたき広島市の平和の鐘



陳 啓濤

経済・貿易実務グループ

北京から東京へ向かう飛行機に乗ったその瞬間に、私は日本の近代化の息吹を感じた。

そして、かくも大きな成田空港を目のあたりにし、街灯がきらめく、水の流れのごとく車が走る高速道路を通り、豪華なホテルメトロポリタンに足を踏み入れたとき、機上での印象はさらに強くなった。私は、これまでに日本の歴史や現状に関する本を読み、日本の戦後の経済発展の速さについても知ってはいたが、まさに百聞は一見にしかずである。この目で見て、近代化とはこういうものであったと初めて知った。

私は、日本の近代化に感心し、かつ勤勉で聡明な日本国民に感服した。国民が忙しく張りつめた

労働で流した汗が近代化の花を咲かせたのだ。日本での印象を持ち帰り、それを周囲の人々に伝え、日本国民のような勤労精神で祖国の近代化をはかろうと思う。

日本で過ごした時はすでに過去のものとなり、数多くの印象が私の記憶に刻みつけられた。私は、大阪の恩地正浩さんご一家の心温まるおもてなしを忘れることができない。別れるとき、恩地さんのご両親にかたく握られた手に、私は涙を流し、中日両国のふつうの人々の友情を知った。富士の裾野でともに合宿をした日本の友人たちを忘れることができない。そこには、私たちの笑い語り合う声が残されている。今回のプログラムのコーディネートをしてくれた日本の友人たちの苦勞も忘れられない。福山さんの踊る姿、松田さんと加藤さんのほほ笑みが今もありありと目に焼き付いている。

忘れがたきもの、それは武蔵野の甘味なビールと追浜工場の数え切れないほどの自動車。忘れがたきもの、それは上野公園の桜の木と栗林公園の錦鯉、まるで絵のような嵐山の風景と厳かにたたずむ周恩来総理の石碑、高くそびえ立つ東京タワー、勇壮な瀬戸大橋……。

しかし、最も忘れがたきものは広島市の平和の鐘——平和公園の青空に高々と吊るされた特別な鐘。この鐘に相対したとき、私は原子爆弾が炸裂する音の中で十数万以上の生命が抹殺された残像を見たような気がした。そしてまた、侵略戦争が中国人民にもたらした災難と死んでいった同胞を目のあたりにしたような気がした。この鐘を前にして、私は平和こそが人類にとって最も大切なものであり、近代化の前提であり、平和でなければ、経済の発展も、世界の繁栄も、人類の幸福もありえず、平和のない地球には大きな災難がもたらされるであろうと深く感じた。この鐘の前に立って、46年前からそこにたたずむ原爆ドームを見つめたとき、若い世代の歴史に対する責任を感じ、また、私た

ちこそが新しい世界平和を守らなければならないのだと感じた。

平和の鐘を見上げ、その鐘声が太平洋を越え、世界のすみずみまで届けとばかりに、力いっぱいいった。この鐘声が福音をもたらし、人類を踏みこむ爆弾があげる狂った叫びをもう二度と聞くことがないようにと、廃虚の中で赤ん坊が母親を呼んで泣き叫ぶ声をもう二度と聞くことがないようにと祈った。この鐘声が、21世紀を迎える青年世代への警鐘となり、世界という大家族のひとりひとりに、平和の中で手を携えてそれぞれの美しい故郷の未来を築くよう喚起することを願う。

私は、また再び日本を訪れたい。北海道や仙台の魯迅先生の記念館を見たい。隣国の近代化建設の新しい姿を見たい。そして、もう一度平和の鐘をつきたい。

## 忘れがたい友情



郝麗霞

文化・教育関係実務者グループ

11月の東京は秋も深まり、秋風もさわやかで快いものだった。中国青年実務者訪日団の団員として日本を訪れたが、日本に着くやいなや、日本の人々の温かい友好の気持ちに包まれた。私たちは、訪問期間中ずっとこのような友好の気持ちに包まれていた。

とくに熱海での日本青年との合宿・交流と香川県では、このような友好の気持ちをことのほか強く感じた。熱海での合宿は3日間という短い時間ではあったが、互いの間に友情が生まれ、美しい思い出となった。熱海に行くバスの中から交流が始まったが、言葉が通じないので筆談をした。日本語、中国語、英語が飛び交い、バスの中は笑いに包まれた。私の隣には法律専攻の学生が座ったが、彼は英語が少しでき、また中国語も少し聞き

とれた。私は日本語はできず、日本に来てから日本語を勉強し、あいさつが少しできるくらいだったが、英語が少しできるので、私たちふたりは3つの言葉と身ぶり手ぶりで、言葉の壁を乗り越えた。

熱海を離れるときには、中国と日本の青年は目に涙をため、別れの握手をしたが、とても感動した。日本の青年は目をうるませながら、私たちと写真を撮って別れを惜しんだ。この光景を目にすると、私はもう涙を抑えることができなかった。素晴らしい日本の青年たち！ 忘れがたい光景！ 熱海駅で新幹線を待っていると発車の1分前に、バスで話をした石井一志さんともうひとりの女の子が目の前に現れた。私たちを送りに来てくれたのである。新幹線が走り出すと、ふたりは手を振りながらホームを走って見送ってくれた。私たち団員は皆とても感動し、窓ごしに手を振って別れた。この感動的な光景は、今でも目の前に浮かんでくる。

日本に来て感動した忘れがたいことがもうひとつある。東京に着いた翌日の昼、私は電話をかけようと公衆電話を探し、10円玉を入れてダイヤルしたが、何回ダイヤルしても音が聞こえずあせっていた。すると道の向こうから中学生くらいの女の子が歩いてきた。私はあわてて呼びとめると、身ぶり手ぶりで「電話をかけたいのですが、この電話は使えるのでしょうか」と尋ねた。女の子はちょっと試してみて首を横に振り、「たぶんこの電話はこわれているのでしょうか」と言った。そして別の電話のところへ連れて行き、手ぶりで「この電話はテレホンカードしか使えません」と言った。私はその意味を察し、「テレホンカードを持っていないので、今日はやめて、また今度にします」と言った。すると女の子は自分のカバンからテレホンカードを出し、私のもっている電話番号を手にとり電話をかけて、受話器を私に渡すと、そのまま行ってしまった。私はあわてて女の子を呼

びとめお金を払うと言ったが、女の子は手を振って「別にいいですよ」と言いながら行ってしまった。女の子の後ろ姿をながめながら、しばらくそこに立ちつくしているうちに、優しい温かい気持ちわいてきた。この少女の優しい気持ちに心を打たれた。テレホンカードの残額は少ないが、それには少女の優しい気持ちが込められている。日本の人々の私たちに対する友好の気持ちが表れている。この気持ちは言葉で言い表すことはできない。

中日青年の間には、越えることのできない溝などないと心から思う。私たちは手と手を取り合って、中国と日本の人々の末長い友好のために貢献しようではないか。友情よとこしえに！

## 熱海での「大自由計画」



張 福艷

文化・教育関係実務者グループ

21世紀の平和と繁栄のためには、未来を担う青年たちの交流を深めなければなりません。

中日青年の相互理解と友情を深め、国と国の理解と友情を深めるために、景色の素晴らしい太平洋沿岸の熱海で中日青年の合宿討論会が開かれた。たった3日間だったが、私たち参加者には忘れがたい思い出になった。紙面に限りがあるので、合宿討論会で心に残った「大自由計画」について書きたいと思う。

「大自由計画」の目的は、私たち中国青年が日本のふつうの市民に話しかけ、彼らの中国人に対する態度と生活のようすを理解することである。「大自由計画」では、各グループごとに熱海市内に行き、10人以上の市民から5つの問題に答えてもらった。そのうち3つの問題は共通で、残り2つは各グループごとに話し合って決めた。

「大自由計画」を進めるうちに、私の日本語も

だんだん鍛えられた。私は中学校の日本語教師だが、毎日授業で教えている内容と、日本の友人と話すときに使う言葉がまったく違うため、日本語で実際に話すチャンスがなかなかもてずにいた。しかし、熱海市民に5つの質問をし答えてもらうためには、よくわかる日本語で尋ねなければならない。はじめのうち、私は自分の日本語のレベルが低いのではないかと心配で、熱海の市民に日本語で尋ねる勇気が出なかった。しかし、同じグループのふたりの日本の友人、小山征則さんと花鳥健司先生が、一生懸命に私を励まし、自信をもたせてくれたので、私は勇気を出して、あまり流暢でない日本語で市民に尋ねた。ひとり目の市民に尋ねたときは緊張もしていたので、2度言ってやっと相手の言っている意味が通じた。同じグループのふたりの日本の友人も説明してくれたので、私たちの質問を理解してくれた。ふたり目の市民に聞くころには私の日本語もだんだん上手になり、自信もついてきた。

熱海市民の親切な協力ぶりには感動した。私の質問は一生懸命聞き、ひとつひとつ真面目に答えてくれた。答えのようすから中国の人々に対する友情と、心からの祝福を感じた。

熱海市民の答えは、言葉が速すぎたり、私の日本語のレベルも低いため、時にはよく聞きとれないこともあった。そういうとき、ふたりの日本の友人は面倒がらずに、たどたどしい中国語とわかりやすい日本語で、私がわかるまで説明してくれた。日本の友人たちの協力のおかげで、楽しくこの活動を終えることができた。

各グループの成果を全員に発表するとき、ふたりの日本の友人は、私に日本語で発表するように励まし助けてくれ、日本語で書いた文を直してくれた。私は人前で初めて日本語を使って発表するので非常に緊張したが、グループの友人が私の後ろで励ましてくれたので、無事発表を終えることができた。私の日本語もだんだんと上達し、日本

語にも自信がついた。

中国青年の合宿討論会は短いものだったが、一緒に過ごした時間は生涯忘れがたい思い出となった。私は日本で学んだものを大切に、帰国後ますます努力して、優秀な日本語教師になりたいと思います。

## 島田先生



詹 顕華

文化・教育関係実務者グループ

12月12日、香川を離れる前の夜、私たちのために歓送会が開かれ、会場は熱気にあふ

れていた。私と李満洪さんがお世話になったホームステイ先の島田和則さんは、私たちを会場のすみに呼ぶと、メモをくれた。メモには「詹様時計不良、滞留不便、私母言两个時計分送你們。」(詹さん時計が壊れて滞在に不便でしょう。母がおふたりに時計をプレゼントすると言ってます)と書いてあった。島田さんからプレゼントの時計をいただいたときの気持ちは、言葉では言い表せない。私たちは日本語ができないし、島田さんも中国語ができないので、話はすべて筆談だった。私たちは片言の日本語でお礼を述べることしかできなかったが、日本の友人の中国人に対する温かい思いやりに包まれた。

島田さんは、私の時計が壊れたことをどうして知ったのだろうか。その日の午前、私たちがレオマワールドに行き楽しく遊んでいると、島田さんも車でかけつけてくれた。昼ごろから小雨が降り出しだんだん寒くなり、島田さんは私たちを喫茶店に誘ってくれた。そこで私が時計を見ると時計が壊れていた。集合時間に遅れるといけなそう思、李さんに時間を聞いた。一見気のきかなそうな島田さんは、このちょっとしたことを気にとめ、心に残し、その夜の時計のプレゼントとなったの

である。

今、私は島田さんからいただいた時計をして、この文を書いている。この時計の価値はすでにもとの価値を超え、中日両国の人々の心と心をつなぐシンボルとなった。この時計を見ると、島田さんの家での3日間のホームステイを思い出し、アットホームでリラックスした気持ちに包まれた。

島田さんは、小柄で、誠実で、だれでも彼の笑顔を見ると、昔からの友人に会ったような気がする。島田さんは、音楽や踊りが好きで、また、大工仕事も得意で、家にあるスピーカーは島田さんの手作りである。島田さんの家での3日間、私たちは毎晩遅くまで筆談を続けた。島田さんは四国電力高等学院を卒業し、四国電力坂出發電所に勤めている。島田さんに「自分の仕事についてどう思うか」と尋ねると、島田さんは「私の発電所は四国の4分の1の地区の発電を受けもっており、一生懸命仕事に励んでいると誇らしげに書き示した。島田さんは広い知識をもち、世の中のことに関心が深く、考え方も前向きで、私たちは中日経済貿易から西太平洋沿岸の経済共同体構想、世界の新しい枠組みから中日両国の外交政策にいたるまで話し合い、多くの点で意見の一致をみた。私は真の知己を得た喜びを感じた。最後の夜、私たちのためのお別れの宴が終わると島田さんは、「李さん、詹さんのお国の繁栄を祈ります」と書いてくれた。異郷にあり、異国の友のこのような熱い願いを耳にして、感激のあまり涙があふれてきた。中日両国の人々の友好往来は言葉の壁を越え、異なる社会体制を越えることができると思った。私たちのホームステイのために、島田さんはゆき届いたスケジュールを立てて下さり、私たちに茶道を体験させるために、茶道の先生の家まで車で連れていってくれた。また坂出發電所を見学したときは、彼の同僚の心からの歓迎と温かいもてなしを受けた。

ある晩、島田さんのお父さんは、島田さんと私

たちが話をしている部屋に元気よく入ってくると、テレビで好きな歌手が歌っていると言いながら、テレビのスイッチを入れ歌手と一緒に大きな声で歌い出した。島田さんのお母さんは、いつも酒の缶をつけたり、お茶菓子を用意してくれた。別れの前の晩、李さんが1階に下りていくと、お母さんは、台所でそっと涙をぬぐっていた。

島田さんは私たちとの筆談で、中日兩國を葉の生い茂った2本の大樹にたとえてみせ、兩國人民の友好往来を草の根の事業にたとえてみせた。島田さんは草の根をはらすために、どれだけの心血を注いだことだろう。

12日夜のお別れパーティーが終わってから、島田さんは発電所の夜勤に行き、翌朝、夜勤明けのまま高松駅まで見送りに来てくれた（私も李さんも彼のからだを心配し、何度も無理しないと言ったのだが……）。

島田さんは今年35歳で、まだ独身である。私がなぜかと尋ねると、「ぼくのような男は、今どきの日本の女性にはもてないよ」と言った。ある晩、電話のベルが鳴り、島田さんは20分も電話をしていた。受話器をおくと、東京のガールフレンドからの電話だったと言った。そして、結婚するときは、中国にハネムーンに行きたいと言った。島田さん、一日も早く幸せな家庭を築いて下さい。島田さんが花嫁さんを連れて中国へいらしたときには、日本であなたが温かく迎えてくれたように、また実の兄弟のようにおもてなしをします。その日が一日も早く来るように、中国でお待ちしています。

## 日本の人々についての印象



尹 晓红

文化・教育関係実務者グループ  
幸運なことに、91年度中国  
実務者招へい計画訪日団文化  
教育グループの一員として、

1カ月間、日本を訪問することができた。帰国にあたり、この30日間どんな収穫があったかと自分に問いかけてみた。目を閉じて考えてみると、どのプログラムからも多くのことを学んだと思う。なかでもとくに印象深かったのは、日本の人々である。

### 1. 日本の人々は礼儀正しい

日本の街は治安もよく、清潔で緑が多く、川の水や空気もきれいで、景色が素晴らしい。これは地理的な条件ばかりでなく、自発的に社会道徳を守り、公共施設や自然環境のよさを大切にする日本の人々のよい習慣と密接な関係があると思う。日本人は皆礼儀正しく、親子の間、同僚の間、上司と部下の間で、またひいては見知らぬ人同士でも、互いにあいさつを交わす姿をよく見かける。私のホームステイ先の家には4歳になる男の子がいたが、お母さんが何かをしてあげるたびに、「ありがとう」という言葉が必ず返ってきた。また、家にやって来るお客さんに対しても礼儀正しく、朝は「おはようございます」、夜は「おやすみなさい」ときちんといさつをしていた。このようすからも、日本は礼儀の国であるということがわかった。

### 2. 日本の人々は誠実で友好的である

日本訪問中いつでもどこでも、道を歩いているときでさえも、日本の人々の温かい友情に包まれていた。ある日、私と友人が道に迷って困っていると、ひとりの日本のお年寄りが、遠回りになるのもいとわず、ホテルまで送ってくれて、やっと安心して帰っていった。また、多くの日本の友人

から、中国人民に対する心からのおわびの言葉を聞き、大変感動した。「過去を反省することは、中日両国人民の間に真の意味での善隣友好関係を打ち立てる基礎である」と、彼らは言った。ホームステイ中に知り合った行成さんは、中国人民が中国に残された日本人孤児を大切に育ててくれたことに対して、感謝の気持ちを述べられた。日本の人々の中国人民に対する誠実で友好的な態度を見るにつけ、両国人民の末永い友好は、確かなものであると信じるようになった。

### 3. 日本の人々の仕事に対する勤勉さ

私の知り合った日本人の多くは、社会に対する強い責任感を持っていた。東京農業大学のある学生は、なぜ農大を受験したかという質問に、「今、日本は食糧の大部分をアメリカからの輸入に頼っているが、もし、アメリカが私たちを援助できなくなる日が来たら、日本人は飢えに瀕することになる。だから私たちは自国の農業を発展させなければならぬ」と答えた。

日本人の多くが日本は国土が狭く資源に乏しいということ認識しており、この危機感があるがために、緊迫感を持っているのだろう。日本人の生活のテンポは速く、仕事の効率も高く、彼らは自発的に勤勉に自分の属する集団のために一生懸命働き、それを苦とせず、かえって楽しみとしている。工藤さんはまさにこういう人である。彼は高校で地理と歴史を教え、週22時間の授業をもっているほか、クラス担任および学年主任も担当している。深夜まで仕事をすることも多く、日本の学校は8時半に授業が始まるのに、朝7時半には学校に行って、授業の準備をする。私は、日本がなぜ今日のような急速な経済発展を遂げたのかがわかったような気がした。

30日は、あっという間に過ぎてしまった。日本の人々に対するよい印象を言葉で表すのは非常に難しいことだが、どうにかして一言で表すとすればこうなるだろう。「両国人民の友情が末永く続いていくことを心より祈っております」。

### 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

#### 合宿セミナーに参加して

米山 秀幸  
会社員

合宿セミナーに参加することが決まったとき、新たな体験ができる喜びに胸をときめかせていた。当日、集合場所のマリナズコートに着いてまず思ったのは、日本人だけの事前研修会があって本当に助かったということ。さすがに隣国だけあって、外見ではほとんど日本人と区別がつかないため、もし日本人参加者とも初対面であつたら私は完全にパニックになっていただろう。

しかし、一番困ったのは、やはり言葉の障壁であった。班別討論では通訳の方がおられるので問題なかったが、自由時間や食事のときなど、そばに話せる人がいない場合、「本当はいろいろとおしゃべりしたいのですが、ごめんなさい言葉がわからなくて……。けっして無視しているわけではありません」という気持ちを込めてニコニコするのが精一杯だった。

ただし、言葉の問題を除けば非常に楽しく有意義な4日間であった。お互いの生活や習慣・仕事内容、はたまた恋愛談義までありとあらゆる話ができ、友情も深めることができた。とくに雄大な富士山を眺めながらの散歩は最高だった。「こんなにきれいに富士山が見えるのは、きっと富士山もあなた方を大歓迎している証拠ですよ」などと、ふだんは言えないセリフが出たのも、彼らと接してほのほのとした素直な気持ちになっていたからだろう。

さて、最後の夜はパーティーを行ったが、私はパーティー委員に任命されていたので、飾り付け

はどうするか、催し物は何にしようかなどずいぶん悩んだ。しかし、案ずるより生むが易しとはよく言ったもので、飾り付けは大半の人が手分けしてやってくれたし、催し物も中国側委員の提案もあって、大変盛り上げることができた（と思う）。あつという間の4日間であったが、参加して本当によかったと思うし、この体験談はより多くの人に話していきたいと思う。

#### 合宿セミナーに参加して

小平 恩子  
学生

11月30日から3日間の熱海での合宿セミナーに参加させていただきました。訪日中国代表団（文化・教育関係者）の接待という大変な仕事です。申し込んだときは軽い気持ちでしたが、事前研修を受けるうちに「これは大変なことだ」と今さらながら愕然（がくぜん）となりました。相手はわずか1カ月という短い期間で来られた代表団です。その短い時間を、少しでも私たちの力で有意義なものにしてあげなければ……。

私たちは言葉もあまりできないし、経験も少ない学生がほとんどです。しかし「案ずるより生むが易し」でした。言葉の壁はハートと智恵で、という基本理念で乗り切り、私たちの誠意はどうやら通じたようです。おかげで代表団の方々も大変満足して下さいました。時間もわずかだし、ハードスケジュールといってもよい日程でしたが、けっして無理はなかったし、かえって密度の濃い交流ができたのではないかと思います。

「一期一会」という言葉もあります。代表団の

方々は、もしかしたらもう二度と日本に来られる機会はないかもしれません。そういう方々が、帰国前日の歓送パーティーの席で、「1カ月間で一番印象に残ったのはどこですか」との質問に対し、「熱海の合宿セミナーでした」と笑って答えて下さったときには、大変な日程だったけれど、参加して本当によかったと思いました。

言葉や文化の壁があっても「がんばれば何とか誠意は通じる」ということをひしひしと実感し、今は本当に幸せです。私は今年から中国に留学するのですが、この3日間は、これから海外に出ようという若者に貴重な手応えを残してくれたと思います。これからも頑張っていきたいです。

## 心の橋

小山 征則

学生

人と人との交流は、たとえ十分な準備の末に臨んだとしても結果が出るまで答えはわからない。それは国籍・人種を問わず、ひとり対ひとりのつき合いから国同士の外交に至るまで皆同じである。

ではいったい成功の鍵を握るものは何か。僕はそれこそ計算できない何かだと思う。偶然や神の意志などというものではけっしてない。むしろ必然であり、参加者全員の意志である場合が多い。雰囲気という言葉が僕のいつている意味に近い。

今回「21世紀のための友情計画」に関していえば、お互いに相手に学ぼうとする真摯な姿勢が、相手に敬意を表しながらも遠ざけることをしない素敵な雰囲気をつくりあげた。それは「友情計画」の参加者のみにとどまらず、計画中に僕たちが出会い、言葉を交わしたすべての日本人をも巻き込んだ交流を可能にした。彼らがこれから日中関係に関心を抱くことがあれば、それもまた計算できない何かをもたらしたうれしい副産物である。

言を重ねることの不味さを許していただけるな

らば、もう一度述べておきたい。

今回の「21世紀のための友情計画」が日中両国青年の心に一条の橋を架けることができたことは、これからの日中関係にとって重要な意義をもつものである。あとはあせることはない。橋を叩いて確かめながらでかまわない。一步また一步と渡っていこうではないか。

いつか再び両国青年が橋の上でしっかりと握手をする日——交流という言葉が不要になるほど理解しあえる日——は、もうそう遠くない。それが橋の中央になるのか、どちらかの岸に近いところになるのかは僕たちの努力しだいである。僕たち日本青年は、向こうから歩いて来る中国青年の姿を信じて、今日もまた一步橋を渡っていこう。

## 「友情計画」に参加して

佐々木 千恵

学生

熱海市内での「大自由計画」の成果発表でのこと。発表中のYさんの口から「甜餅」という言葉が出てきた。「熱海で自慢できるものは何か」という問いで熱海市民から得られた答えを発表しているときである。はて、「ティエンピン」で何のことだっけ。もしかして……、「温泉まんじゅう」のことでは……。ほかにそれらしい言葉は出てこない。やはり「温泉まんじゅう」のことだったのだ。「温泉まんじゅう」が何であるのか、これではわからなかったのではないだろうか。「包子」等の言葉も使って説明したのだが、補足説明が多すぎて混乱してしまったのだろう。先刻一緒に食べたあれと「甜餅」が同じものとは思わなかっただろう。

補足説明が多すぎる、といえはこのようなこともあった。中国人おふたりの日本語も慣れてきて、インタビューもスムーズにできるようになってきたころ、Yさんがもうやりたくない、という素振りを見せた。話が通じてないから、とおっしゃる



のだ。とんでもない、Yさんの日本語は立派に通じている。考えてみれば、横から口を出しすぎていた。つい、いろいろな説明をしてしまった。それが、Yさんには、自分の言葉が通じてないので、私が直しているように見えてしまったのだ、きっと。どうしようもなくなったときに、初めて出ていけばよかった。

以上のように申し訳ないことばかりの「大自由計画」であった。それでも、このような私に、Yさんは別れ際お手紙を下さった。「あなたのおかげで大自由計画が成功しました。云々……」という優しい心遣いのある手紙だった。これでは、どちらかが接待役だったのかわからない。

気配りと中国語。これが私の課題。少しでも身についたころ、またお会いしましょう、Yさん。

## 「友情計画」

鈴木 康洋  
学生

私が中国に行ったのは1988年の春のことだった。それまで外国、中国をテレビ、新聞でしか知らなかった。1カ月ほどの滞在であったが、初めて土を踏んだ大陸の住民は温かかった。見ず知らずの私をまるで旧知の友人をもてなすかのように接待してくれ、家にも招待してくれた。席を同じくしただけで家に泊めてくれた。大学の講義を休んで駅まで見送りに来てくれた。同じ時を過ごし同じように考えている人間がここにもいるんだ、ということを教えてくれた。

そんな人たちに、なんらかの形でお礼がしたいと思い、帰国後もこの交流団体に参加している。短期留学生、長期派遣生、長江計画（日本にいる中国人との交流）を通し、ほかの人にも中国の長所を見てきてほしかった。そうこうしているうちに3年半の時間が過ぎ、学生でいられるのもあと1年。何か機会はないものかと考えていたときに「友

情計画」を知り、協会の人をお願いして参加が決定した。ようやく3年半もの思いが少しはかない、またあの国の人に触れられる。今度は自分らが接待しなくてはならない、日本のよさを中国で伝えてほしいと思った。互いの国と人を理解するために……。

今回、教育関係者25名の中国人と会った。年齢も日本側参加者と近く、すぐに打ち解けあった。一緒に寝て、食事をし、風呂に入り、酒を飲んだ。相手も気を遣わず、自分も昔の友人と接するごとく話をした。少しでも今の日本を理解して帰ってほしい、あなたたちの話を聞きたい、あなたたちを知りたいという人が集まっていることをわかってほしかった。

帰国の前夜のパーティーで、ある方が私に言うてくれた。「君と君たちに会うために、時間はかかるがまた日本にやって来る」。これは、自分の思いが相手に通じたということを示す言葉だと思った。自分の中の「友情計画」は素晴らしい成功を収めた。私は自分の思いを率直にぶつけられた、と感じた。そして私はこう言った。「ここに日本のビール券があります。あなたに渡します。でもその券は中国では使えません。日本に再び来て私たちと一緒に飲むときまで預かって下さい」。

彼を含めた25人が帰国した今、ひとりひとりがそれぞれの生活に戻っている。彼ら25人が日本を、自分たちのことを友人たちに伝えていて自分は思う。

最後に、参加させていただいた「友情計画」に関わった人々にお礼が言いたい、謝謝。

## 合宿セミナーに参加して

平野 愛  
団体職員

自分でも驚いた。合宿セミナー終了後、中国の青年がバスに乗りこみ、お別れのあいさつをして

いるとき、私は不覚にも涙がこぼれて身動きができなくなってしまったのである。たった3日間を一緒に過ごただけなのに、こんなにも名残惜しいなんて。

合宿セミナーは熱海のホテルで、中国の実務者のうち、教育・文化関係者25人と、日本青年25人の参加者で行われた。私は中国の人と接するのは初めてではなかったが、今まで知り合った人々はいずれも日本語が堪能で、日本での生活が長いような人ばかりで、今回のように日本へ来るのが初めてで、日本語も通じない人との合宿には不安もあった。

私は中国語を学習したことがない。話すことも文章を書くこともできない。しかし、中国は漢字の国だ。文法などわからなくとも意思を伝えることは可能だろう、とペンとノートを片手に参加した。文化の違い、習慣の違い、職業の違いなどあ

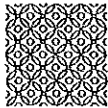
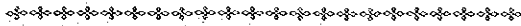
らゆる話題を紙に書いて伝える。表現は率直・短絡的であつたものであるが、熱意を汲んでくれたのか、筆談による会話ははずむ。

手元に残る筆談に使ったレポート用紙は10枚を下らない。表も裏も余すところなくびっしり書いてある。私の宝物。体当たりの勇気と、自信をくれたもの。

日本と中国には悲しい歴史がある。歴史を消すことはできないが、参加者の青年の過去を振り返る謙虚な心と、未来を見つめるまっすぐな瞳は必ず両国の友情関係を育み、それは絶えることはないだろう。「21世紀のための友情計画」は私に、参加者全員にそんな思いを残してくれた。

涙はお別れが悲しいのではなく、心が痛むのもなく、さまざまなことを考えさせてくれた参加者への、合宿セミナーへの感謝の念からのものだったと信じる。

## 4. ホストファミリーの思い出



### 中国からのお客さん

加藤 博通  
岐阜県

私たち家族が中国の方のホストファミリーを引き受けたのは、今回で2回でした。初回は日本へ企業研修に来ている研修生で、日本語を話し、書くこともできる方なのであまり不安はありませんでした。しかし今回の方は、当初から中国語しか理解できないでしょうといわれていたので、とても不安でした。

受け入れ前の説明会でふたりのうちのひとりの方は英語が堪能であることがわかり、私たち夫婦は胸をなで下ろしました。というのも英語圏からのホームステイの受け入れはこれまで何回となく経験済みであったからです。説明会では、どんな食べ物がいいのか、どんな場所を訪れたいのか、簡単な中国語の勉強など、いろいろな説明を受け、当初の不安も心もち楽になったようでした。

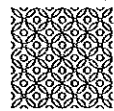
いよいよ私たちの家庭にふたりの方がみえる日が来ました。ふたりとも20代後半の方で、もし町で見かけても、だれもが日本人と間違えるくらいです。あらためて日本と中国という国がいかに近い存在なのか、ということに気づきました。わが家のふたりの子供たちもふたりにエレクトーンをひいてあげたり、世界地図を広げてふたりの出身地の説明を求めていました。

次の日、家族で日本の城を見物に行きました。また夜にはボウリングをすることになりました。ふたりは初めての経験でしたが、ストライクもとれて、とても楽しそうでした。

ひとりの方は子供のテレビゲームがとても気に

いり、ふとんの中まで持っていき深夜までしていたらしいです。

こうして2日間のホームステイは終わりました。今後も連絡を取り合い、文通し合いましょうと話し、別れました。いつかこの青年たちに会えることを夢見て……。



### 友、遠方より来たる

林 新太郎  
岐阜県

中国地域産業技術実務者のメンバーのうち長江生態科学院院長の呉祖髮さんと天津市武清県の長青保鮮製品工場長の韓万景さんのふたりがわが家を訪れました。昔から中国では一度会った友人はもう古い友人だそうで、また「友、遠方より来たる。また楽しからずや」といわれるように古い友人に会える、そんなソワソワした気持ちで迎えることになりました。

ホームステイを受ける前日まで、家族ともども交流手帳を聞いて、簡単な中国語を少しでも数多く覚えてと思いつつ……。実際おふたりに会ったらすっかり忘れてしまい、「はじめまして、ようこそいらっしゃいました。やあやあ」というように、日常日本人と会話するような調子で、中国人だというのをすっかり忘れていました。また、事前に、このおふたりはメンバーのなかでもとくに勉強熱心で、新しい中国を担う素晴らしい青年だと聞いていましたが、まさにそのとおりでした。

研修目的にできるだけそえるように、及ばずながらスケジュールを組んで、できるだけ有効に時間を使えるように配慮したつもりでした。大垣の

食肉加工場、バイオ研究施設農場、卸売公設市場、養魚場、びわ湖の淡水真珠養殖場など、貪欲に計画しました。行く先々で粘り強く質問する彼らには、頭が下がる思いがしました。

家庭に戻ってからは、まさに「郷に入れば郷に従え」のたとえどおり、妻のふつうの日本の家庭料理を味わい、またわが家のせんべい布団にも慣れ、家族の一員としてふるまってくれました。また言葉の障壁は苦にならないとはいいいながらも、いざその場になると数多くの枚数のメモ帳を取り出し、漢字の筆談で交流。多少理解できないところはお互いの直感力でカバーしあいました。「また手紙下さいね」と書いたら、手紙は中国ではトイレットペーパーだといわれたり……。そんなほのぼのした会話や、中国の現状、故郷での仕事の未来の夢など話は尽きなく、夜の更けるのも忘れた楽しい思い出でした。

昔から「会うは別れの始め」といいますが、時

の経つのは速いもので、2泊3日のホームステイもいよいよ終わりに近づき、打ち上げはホテルでの家族を囲んでのお別れパーティーです。司会者から「何か家族と一緒に歌を歌って下さい」といわれ、日本の歌「北国の春」と、中国に行ったとき覚えた懐かしい「我愛北京天安門」を一緒に中国語で歌い、楽しかった思い出多いホームステイは幕を下ろしました。

中国のことわざに「井戸水を飲むときには、井戸を掘った人のことを思って飲め」とありますが、こうして近くて遠い国だった中国と、本当に親戚同士のおつき合いができる素晴らしい関係になりましたのも、日中友好に尽くされた幾多の先人のおかげだと心から感謝をし、これからは私たちがそれを受け継いでいかなければと決意した次第です。

またの再会と日中友好が子々孫々まで続くことを祈り、再見。

|実績資料|

## 1. 現地プログラム実施日程

	午 前	午 後	場 所
第1日目	●開講式	●オリエンテーション ●質疑応答	中日青年友好交流センター
第2日目	●説明会 ●JICA 事業についての説明 ●渡航手続き ●日本映画鑑賞	●グループ別説明会 ●グループ別日本語学習	〃
第3日目	●講義「日本概況」	●松下ブラウン管工場見学 ●歡送会	〃

## 2. 中国実務者招へい計画実績

### ●平成2年度（99名）

	人数	実施協力団体	実施県	JICA 支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
地域産業技術実務者	24	全国農村青少年教育振興会	岐阜	中部支部	岐阜県指導農業士連絡協議会	農政部農業技術課	金田 三郎 藤田 忠雄	山本 知里 張 愛 平
産業基盤整備実務者	25	青少年育成国民会議	広島	中国支部	青少年育成広島県民会議	民生部青少年対策室・青少年婦人課	山崎 武	村田 好子 黄 丹 青
経済・貿易実務者	25	ユースワーカー能力開発協会	沖縄	沖縄支部	沖縄県国際交流財団	総務部知事公室国際交流課	福山 敦夫	邵 春 芬 橋本 和子
文化・教育関係実務者	25	世界青少年交流協会	徳島	四国支部	徳島県青年海外派遣の会	企画調整部青少年婦人室	白井 千里	加藤 洋子 李 珊

### ●平成3年度（100名）

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA 支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラム コーディネーター	JICA コーディネーター
地域産業技術実務者	25	中央青少年団体連絡協議会	岐阜	中部支部	大垣市国際交流協会	総務部総務課	関 保則	黄 丹 青 山下 智子
産業基盤整備実務者	25	青少年育成国民会議	島根	中国支部	島根県国際交流青友会	総務部総務課文化国際室	森田 廣	高木 品子 邵 春 芬
経済・貿易実務者	25	ユースワーカー能力開発協会	大阪	関西支部	インター・コミュニケーション・大阪	生活文化部青少年課	福山 敦夫	加藤 洋子 松田 安子
文化・教育関係実務者	25	世界青少年交流協会	香川	四国支部	香川県海外派遣友の会	総務部国際交流課	白井 千里	渋谷 千春 八木 環

### 3. 実施日程

地域産業技術実務者グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
11/19	火	来日 生活ガイダンス	東京
20	水	本計画のブリーフィング 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	〃
21	木	講義「日本と中国」 国立歴史民俗博物館見学	〃
22	金	日本語学習 講義「日本の産業構造と地域振興」 武道鑑賞および交歓会	〃
23	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	〃
24	日	<自主研修>	〃
25	月	日産自動車見学	〃
26	火	東芝科学館見学 横浜山下公園見学 東京タワー見学	〃
27	水	国会議事堂見学 東京証券取引所見学	〃
28	木	東京青年会議所訪問 NIKK 放送センター見学	〃
29	金	浜松へ移動 富士サファリパーク見学 合宿セミナー開講式	静岡
30	土	講演「静岡県の地場産業について」 グループ討論Ⅰ グループ討論Ⅱ 交流の夕べ	〃
12/1	日	レクリエーション グループ討論まとめ 全体発表会	〃
2	月	みかん園・選果場見学 河合楽器見学 すっぽん養殖場見学	〃
3	火	大垣へ移動	岐阜
4	水	大垣市役所表敬訪問 大垣市産業対策についての説明 大垣市内産業施設見学	〃
5	木	花卉総合指導センター「花トピア」見学 東濃酪農農業協同組合連合会施設見学	〃
6	金	恵那峡遊覧 名古屋市市内見学 中間総括会	愛知
7	土	華道・茶道・琴の体験 ホームステイ引き渡し	岐阜
8	日	<ホームステイ>	〃
9	月	浅野養鶏場見学 雨宮大社見学 関ヶ原石材工場見学 大垣農業高校見学 地元青年との交流会	〃
10	火	大垣市農業協同組合・西南農業改良普及所訪問 ボウリング大会	〃
11	水	カントリーエレベーター見学 民俗資料館見学 三洋電機工場見学 中間総括会 さよならパーティー	〃
12	木	京都へ移動 二条城・嵐山・金閣寺・古代友禅苑見学	京都
13	金	松下自転車工場見学 大阪市内見学 大阪国際奉仕サービスセンターメンバーとの交流	大阪
14	土	広島へ移動	広島
15	日	平和記念公園・原爆資料館見学 宮島・厳島神社見学	〃
16	月	東京へ移動	東京
17	火	<帰国準備>	〃
18	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	〃
19	木	帰国	

産業基盤整備実務者グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
11/19	火	来日 生活ガイドンス	東京
20	水	本計画のブリーフィング 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	"
21	木	講義「日本と中国」 国立歴史民俗博物館見学	"
22	金	日本語学習 講義「日本の産業と経済」 武道鑑賞および交歓会	"
23	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	"
24	日	<自主研修>	"
25	月	日産自動車見学	"
26	火	青少年育成国民会議オリエンテーション・講義 昼食会 国土庁訪問・講義	"
27	水	農業総合研究所訪問・講義 全農東京生鮮食品集配センター見学	"
28	木	奈良機械製作所訪問・講義	"
29	金	富士吉田へ移動 合宿セミナー開講式 交流の夕べ	山梨
30	土	グループ討論Ⅰ グループ討論Ⅱ スポーツ交流 料理交流	"
12/1	日	全体発表会 箱根観光 東京へ移動	東京
2	月	<自主研修> 島根へ移動	島根
3	火	オリエンテーション 日本人家庭を訪問	"
4	水	鹿島水産試験場見学 県庁職員との懇談会	"
5	木	中海千拓見学 三菱農機工場見学 地元青年とのスポーツ交流・交歓会	"
6	金	都築紡績出雲工場見学 益田市役所表敬訪問・歓迎レセプション 石見町役場表敬訪問	"
7	土	空港および農地開発基盤整備見学・ボーリング交流会 地場産業見学・歓迎レセプション	"
8	日	<ホームステイ>	"
9	月	出雲へ移動 出雲大社見学 林業技術センター見学 夕食交歓会	"
10	火	広瀬幼稚園見学 昼食会 情報科学高等学校訪問 さよならパーティー	"
11	水	島根県庁表敬訪問 松江城見学 日赤血液センター・病院見学	"
12	木	松江消防本部見学	"
13	金	広島へ移動 平和記念公園・原爆資料館見学	広島
14	土	京都へ移動 嵐山・金閣寺・清水寺見学	京都
15	日	奈良へ移動 東大寺・春日大社・興福寺見学	奈良
16	月	東京へ移動	東京
17	火	<帰国準備>	"
18	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	"
19	木	帰国	"



経済・貿易実務者グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
11/19	火	来日 生活ガイダンス	東京
20	水	本計画のフリーフィング 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	〃
21	木	講義「日本と中国」 国立歴史民俗博物館見学	〃
22	金	日本語学習 講義「日本の産業と経済」 武道鑑賞および交歓会	〃
23	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	〃
24	日	<自主研修>	〃
25	月	日産自動車見学	〃
26	火	通商産業省訪問 日本貿易振興会訪問 東京タワー見学	〃
27	水	経済団体連合会訪問 ららぽーとショッピングセンター・富士通パビリオン見学	〃
28	木	東電学園見学 サントリー武蔵野ブルワリー見学	〃
29	金	富士吉田へ移動 合宿セミナー開講式 交流の夕べ	山梨
30	土	基調報告 グループ討論Ⅰ グループ討論Ⅱ	〃
12/1	日	グループ別河口湖散策 さよならパーティー	〃
2	月	スポーツ交流 東京へ移動	東京
3	火	<自主研修>	〃
4	水	広島へ移動 平和記念公園・原爆資料館見学	広島
5	木	岡山へ移動 瀬戸大橋見学	香川
6	金	四国通商産業局訪問・講義 栗林公園見学	〃
7	土	京都へ移動 嵐山・平安神宮見学	京都
8	日	金閣寺・古代友禅苑・清水寺見学	〃
9	月	大阪へ移動 オリエンテーション 万博記念公園・日本庭園見学(茶道体験) 国立民俗学博物館見学	大阪
10	火	大阪府庁表敬訪問・講義 インテックス大阪見学 海遊館見学 歓迎レセプション	〃
11	水	松下電器産業訪問 堺青果センター見学	〃
12	木	グループ別研修・施設見学 (①教育②社会福祉③文化④平和⑤マスメディア) 地元青年との交流会	〃
13	金	交流の夕べ ホームステイ引き渡し	〃
14	土	<ホームステイ>	〃
15	日	ホームステイ さよならパーティー	〃
16	月	東京へ移動	東京
17	火	<帰国準備>	〃
18	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	〃
19	木	帰国	〃

文化・教育関係実務者グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
11/19	火	来日 生活ガイダンス	東京
20	水	本計画のフリーフィンク 開講式 昼食懇談会 団体プログラム紹介 日本語学習	〃
21	木	講義「日本と中国」 国立歴史民俗博物館見学	〃
22	金	講義「日本の教育」 日本語学習 武道鑑賞および交歓会	〃
23	土	体験的日本語学習打ち合わせ 体験的日本語学習	〃
24	日	<自主研修>	〃
25	月	日産自動車見学	〃
26	火	世界青少年交流協会オリエンテーション 国会議事堂見学	〃
27	水	東京タワー見学 銀座見学 東京証券取引所見学 浅草見学	〃
28	木	東京農業大学訪問（農場見学、教員・学生との交流会）	〃
29	金	川口市役所表敬訪問 青木中央小学校訪問 川口高校訪問	埼玉
30	土	熱海へ移動 合宿セミナー開講式 自己紹介	静岡
12/1	日	講演「これからの日中交流」 熱海市内でのアンケート調査 アンケート調査結果発表会	〃
2	月	グループ討論 全体発表会 交流の夕べ	〃
3	火	高松へ移動 オリエンテーション・香川県の概要説明 歓迎レセプション	香川
4	水	屋島・四国村見学 香川県庁表敬訪問 栗林公園見学	〃
5	木	大手前高校訪問 四国電力丸亀営業所見学 日本少林寺拳法連盟本部訪問 香川第一中学校訪問・交流会	〃
6	金	本四公園早島管理事務所訪問 瀬戸大橋記念公園見学 瀬戸内海歴史民俗資料館見学 ホームステイ引き渡し	〃
7	土	<ホームステイ>	〃
8	日	<ホームステイ>	〃
9	月	ホームステイ 中学生の野外学習見学	〃
10	火	高松高等技術学校訪問 地元青年とのスポーツ交流会	〃
11	水	レオマワールド見学 地方プログラム評価会 さよならパーティー	〃
12	木	広島へ移動 平和記念公園・原爆資料館見学	広島
13	金	宮島・厳島神社見学	〃
14	土	京都へ移動 古代友禅苑・金閣寺・嵐山見学	京都
15	日	宇治平等院・奈良東大寺・二条城・西陣織会館・清水寺見学	〃
16	月	東京へ移動	東京
17	火	<帰国準備>	〃
18	水	帰国についての説明・諸手続き 評価会 歓送会	〃
19	木	帰国	〃

### 4. 平成3年度青年招へい事業受け入れ実績一覧

受入時期	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県
5月14日～6月13日 1陣 120名	マレーシア	勤労青年	20	ユースワーカー能力開発協会	高知 福岡 宮崎 茨城 大分 大
	//	学生	20	日本国際生活体験協会	
	フィリピン	学生(農業系)	20	全国農村青少年教育振興会	
	//	教員	20	国際交流サービス協会	
	タイ	勤労青年	20	勤労厚生協会	
5月28日～6月27日 2陣 160名	ASEAN 混成	学生	30	日本ユースホステル協会	長野 和歌山 岐阜 山形 福島 鹿児島 北海道
	ASEAN 混成	教員	25	日本ユネスコ協会連盟	
	ブルネイ	教員・学生	20	世界青少年交流協会	
	インドネシア	教員	25	青年海外協力協会	
	//	テーマA	20	ユースワーカー能力開発協会	
7月2日～8月1日 3陣 134名	フィリピン	勤労青年I(産業系)	25	日本経済青年協議会	長野 佐賀 富山 宮崎 滋賀
	//	テーマB	20	青少年育成国民会議	
	シンガポール	青年指導者	22	日本国際生活体験協会	
	//	公務員I	22	国際交流サービス協会	
	タイ	青年指導者	25	日本青年団協議会	
7月9日～8月8日 4陣 98名	韓国	青年指導者	19	青少年育成国民会議	三重 山口 沖縄 山
	//	教員	20	日本ユネスコ協会連盟	
	//	勤労青年	28	勤労厚生協会	
	//	学生	31	世界青少年交流協会	
	8月20日～9月19日 5陣 161名	ASEAN 混成	公務員I	27	
インドネシア		勤労青年	25	勤労厚生協会	
//		テーマB	20	日本ユースホステル協会	
マレーシア		農村青年(公務員)	20	全国農村青少年教育振興会	
//		テーマB(青年指導者)	25	青年海外協力協会	
8月27日～9月26日 6陣 117名	ASEAN 混成	公務員II	30	青少年育成国民会議	九州 秋田 山梨 鳥取 富山
	フィリピン	勤労青年II(農業系)	23	青年海外協力協会	
	//	テーマA	19	日本国際生活体験協会	
	タイ	農村青年	25	国際協力サービス・センター	
	//	テーマB	20	日本青年団協議会	
9月12日～10月8日 7陣 74名	P N G	教員	20	日本国際生活体験協会	大分 北海道 新潟 栃木 熊本
	//	青年指導者	10	日本ユースホステル協会	
	フィジー	公務員	12	世界青少年交流協会	
	太平洋混成	公務員	22	国際交流サービス協会	
	//	教員	10	日本ユネスコ協会連盟	
10月1日～10月31日 8陣 94名	ブルネイ	テーマA	9	日本経済青年協議会	岡山 徳島 広島 新潟 長崎
	インドネシア	農村青年	20	全国農村青少年教育振興会	
	//	学生	20	日本友愛青年協会	
	マレーシア	教員	20	日本ユースホステル協会	
	//	テーマA(公務員)	25	世界青少年交流協会	
10月17日～11月12日 9陣 100名	Bangladesh	教員	20	日本ユネスコ協会連盟	青森 愛知 北海道 宮城 山梨
	ブータン・ネパール	教員	15	青年海外協力協会	
	インド	教員	30	世界青少年交流協会	
	モルディブ・スリランカ	教員	15	ユースワーカー能力開発協会	
	パキスタン	教員	20	国際交流サービス協会	
11月5日～12月5日 10陣 100名	中国	総団	4	国際交流サービス協会	沖縄 鳥取 福岡 青森
	//	公務員	22	国際交流サービス協会	
	//	青年指導者	25	日本ユネスコ協会連盟	
	//	経済青年	25	日本経済青年協議会	
	//	教員	24	青年海外協力協会	
11月19日～12月19日 11陣 100名	中国	地域産業技術実務者	25	日本ユースホステル協会	岐阜 山梨 大阪 香川
	//	産業基盤整備実務者	25	青少年育成国民会議	
	//	経済・貿易実務者	25	ユースワーカー能力開発協会	
	//	文化・教育関係実務者	25	世界青少年交流協会	
	//		25		
合計	ASEAN 6カ国(786)	太平洋諸国(74)		58グループ	
	中国(200)	韓国(98)	南西アジア(100)	1258名	

テーマA：環境問題 テーマB：社会福祉

## 5. 青年招へい事業実施協力団体等一覧

- (特)青少年育成国民会議 (National Assembly for Youth Development-NAYD-)  
〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター  
TEL3460-4151 FAX3460-1603
- (特)世界青少年交流協会 (The World Youth Visit Exchange Association-WYVEA-)  
〒111 台東区浅草橋1-7-2 岩崎ビル  
TEL5820-0791 FAX5820-0796
- (特)日本国際生活体験協会 (Japanese Association of The Experiment in International Living-EIL-)  
〒102 千代田区麴町4-5 橋ビル6階  
TEL3261-3451 FAX3261-9148
- (特)全国農村青少年教育振興会 (The Rural Youth Education Development Association)  
〒162 新宿区新小川町4-19 末ビル3階  
TEL3235-7461 FAX3235-7462
- (特)日本経済青年協議会 (Junior Executive Council of Japan-JEC-)  
〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター  
TEL3469-2381 FAX3481-5726
- (特)勤労厚生協会 (The Working Youth Welfare Association)  
〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター  
TEL3469-6421 FAX3469-6422
- (特)ユースワーカー能力開発協会 (Development Association for Youth-DAY-)  
〒105 港区新橋1-1-1 日比谷ビル6階  
TEL3508-2048 FAX3503-2535
- (特)国際交流サービス協会 (International Hospitality and Conference Service Association-IHCSA-)  
〒100 千代田区霞ヶ関2-2-1 外務省第一別館  
TEL3580-1621 FAX3580-1682
- (特)青年海外協力協会 (Japan Overseas Cooperative Association-JOCA-)  
〒106 港区南麻布5-10-24 第2佐野ビル7階  
TEL3446-3651 FAX3446-3652
- 日本青年団協議会 (Japan Seinendan Council)  
〒160 新宿区霞ヶ丘町15 日本青年館2階  
TEL3475-2491 FAX3475-0668
- (特)日本ユネスコ協会連盟 (National Federation of UNESCO Associations in Japan)  
〒163 新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル38階  
TEL3340-3921 FAX3340-3928

⑧日本ユース・ホステル協会 (Japan Youth Hostels, Inc.)

〒162 新宿区市谷砂土原町1-2 保健会館

TEL3269-5831 FAX3235-0629

⑨日本友愛青年協会 (Yuai Youth Association)

〒112 文京区音羽1-7-1

TEL3941-2801,1888 FAX3944-2550

⑩国際協力サービス・センター (International Cooperation Service Center-ICSC-)

本 部

〒162 新宿区市谷本村町42 経済協力センタービル別館

TEL3355-6441 FAX3355-6448

国際交流部

〒160 新宿区片町6-8 ハッシービル3F

TEL3355-6491～2 FAX3355-2929

早稲田大学国際交流センター (Wasca University International Center)

〒169 新宿区西早稲田1-6-1

TEL3203-7747

日本武道館 (Nippon Budokan)

〒102 千代田区北の丸公園2-3

TEL3216-5137



# 中国实业家邀请计划





# 序

“中国实业家邀请计划”是从1990年开始实行的，今年我们高兴地迎来了地区产业技术、产业基础设施建设、经济贸易以及文化教育方面的4个小组共100名第一线工作者，并顺利地结束了整个活动日程。

在一个月期间里，举办了合宿研讨会、民宿活动以及考察各种设施和企业等丰富多彩的活动。中国青年一定在日本各地留下了美好的印象。日本青年也通过与中国青年交流的机会，获得了超越语言和生活习惯的共鸣。我们听到了许多发自肺腑的欢声，为这项计划的巨大意义感到十分高兴。

本报告书以中国青年代表、参加合宿研讨会的日本青年和提供家庭住宿条件的全国各地许多民宿主人寄来的感想文为中心，总结了中国青年一个月的来访情况。在本计划实施过程中，得到了包括感想文作者在内的多方人士的大力支援和协助。对此我表示深切的谢意。希望本报告书不仅成为各位的美好回忆录，而且通过它，各位获得的宝贵经验能够成为更多人的共有财产。

最后，借本文再一次衷心感谢在本计划实施中给与热情关怀和协助的各位有关人士。同时，为了使我国与中国之间的友好纽带日益牢固，今后希望继续得到各位的大力协助。

国际协力事业团  
研修事业部  
部长 诹访 龙

1992年3月



# 目 录

## 序

一、中国实业家邀请计划	
1. 计划概要	43
2. 实施协助团体与实施县	45
二、招聘青年的感想	47
三、参加合宿研讨会的日本青年的感想	55
四、民宿主人的感想	58
〈实施情况等资料〉	
一、在京日程	62
二、中国实业家邀请计划实施情况一览表	62
三、具体活动日程	63
四、1991年度青年招聘事业实施情况一览表	67
五、青年招聘事业实施协助团体等地址	68
〈招聘青年名单〉	71



# 一、中国实业家邀请计划

## 1. 计划概要

### 1) 目的

“中国实业家邀请计划”的目的是，通过日本与中国专业工作者的交流，支援中国现代化建设，加强相互理解和信赖，共同创造21世纪日中友好合作关系。

### 2) 实施方法

#### A 招聘人数

1991年度同时邀请100名青年。

#### B 招聘对象

在以下各领域里从事领导工作的18~35岁的青年。

##### (i) 地方产业技术实业家 25名

从事农业和农村企业的技术开发和普及工作，致力于促进地区发展的人员。

##### (ii) 产业基础设施建设实业家 25名

从事各种产业基础设施建设，致力于促进地区发展的人员。

##### (iii) 经济贸易实业家 25名

从事经济管理或外贸业务工作，致力于经济改革的人员。

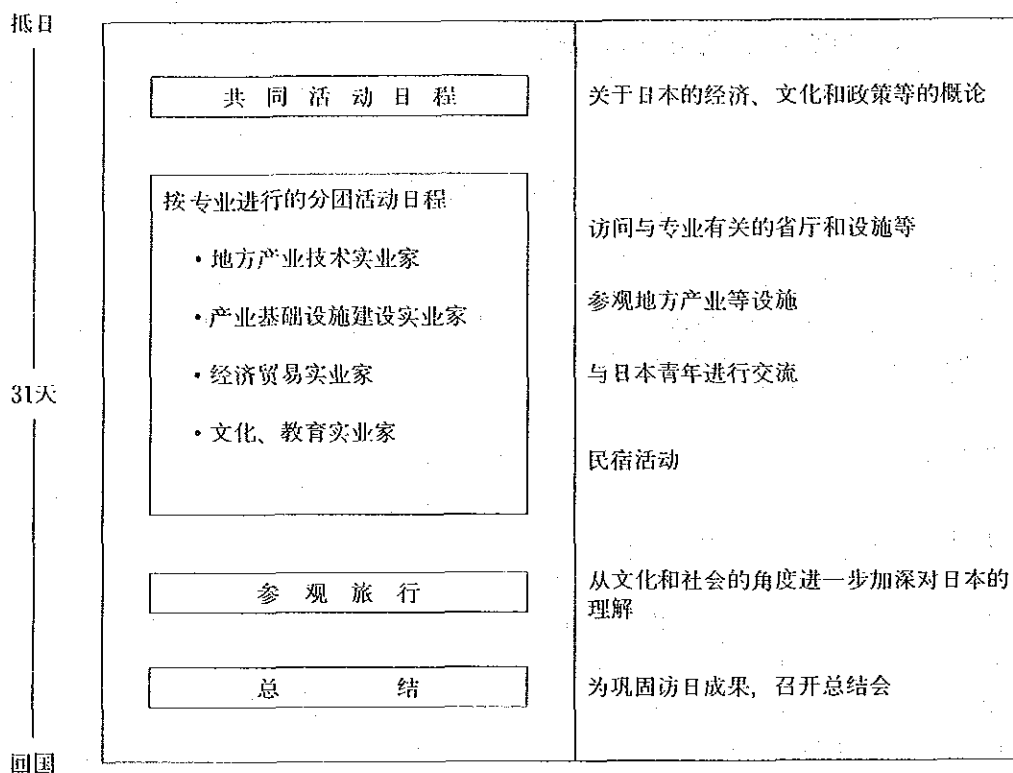
##### (iv) 文化、教育实业家 25名

从事文化保护和发展工作的人员。

#### C 招聘日期

11月19日~12月19日 一个月

### 3) 日程概要



### 4) 接待体制

为了本计划能够顺利实施，特设以下两个委员会。

#### A 有关省厅调整联络会议

(i) 任务：就本计划的实施及运营方面的基本事项进行磋商。

(ii) 组成成员

外务省经济协力局技术协力科

亚洲局地域政策科

大臣官房文化交流部文化第二科

总务厅青少年对策本部

文部省学术国际局国际企划科教育文化交流室

农林水产省经济局国际部国际协力科

劳动省大臣官房国际劳动科

自治省大臣官房企划室

国际协力事业团

#### B 实行联络调整委员会

(i) 任务：就计划的运营、分团活动日程的实施以及各活动日程之间的衔接等事项进行磋商，同时就活动日程实施上的问题，向国际协力事业团提出建议。

(ii) 组成成员：由各省厅推荐的民间实施协助团体

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| (社) 青少年育成国民会议    | (社) 国际交流服务协会  |
| (财) 世界青少年交流协会    | (社) 青年海外协力协会  |
| (社) 日本国际生活体验协会   | 日本青年团协议会      |
| (社) 全国农村青少年教育振兴会 | (社) 日本科教文协会联盟 |
| (社) 日本经济青年协议会    | (财) 日本青年旅馆协会  |
| (社) 勤劳厚生协会       | (财) 日本友爱青年协会  |
| (财) 青年工作能力开发协会   | (财) 国际协力服务中心  |

### 5) 计划实施与运营的分工

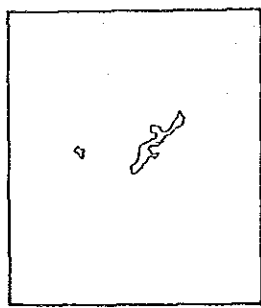
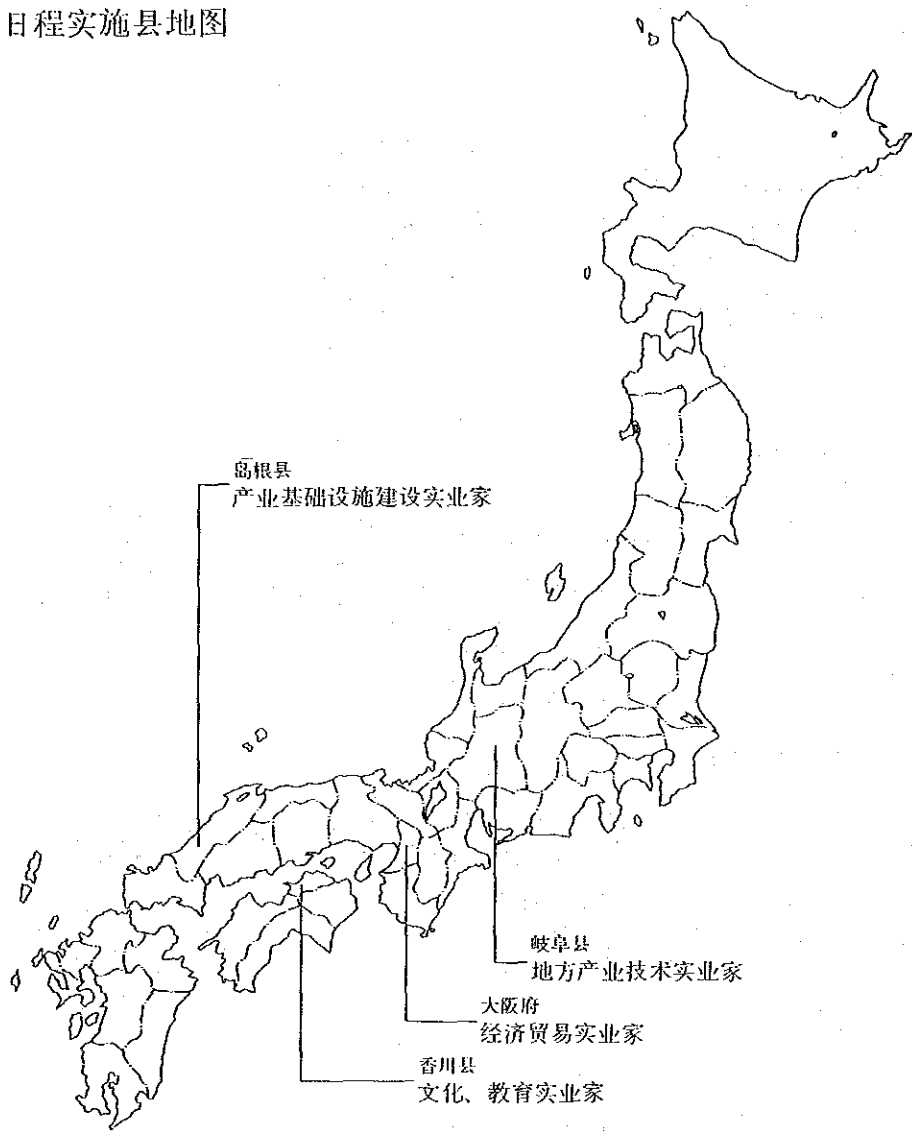
	日 程 监 督	日 程 实 施		食宿安排
		联络调整	实 施	
北京活动日程	国际协力事业团	国际协力事业团	各实施单位	各实施单位
共同活动日程 (东京都内)			国际协力服务中心	国际协力服务中心
东京都内分团活动日程 (东京都内)		实施协助团体	实施协助团体	实施协助团体
合宿研讨会 (东京近郊)				
地方分团活动日程 (包括民宿)		实施协助团体 地方协助团体 (国际协力事业团) 地方支部	地方协助团体 (国际协力事业团) 地方支部	地方协助团体 (国际协力事业团) 地方支部
参观旅行 (广岛、京都等)		实施协助团体	实施协助团体	实施协助团体
评价、总结 (东京都内)		国际协力事业团	国际协力服务中心	国际协力服务中心

(注) 地方分团活动日程是在地方公共团体的指导和协助下实施的。

## 2. 实施协助团体与实施县

分 团	人 数	实 施 协 助 团 体	实 施 县
地方产业技术实业家	25	中央青少年团体联络协议会	岐 阜
产业基础设施建设实业家	25	青少年育成国民会议	岛 根
经济贸易实业家	25	青年工作能力开发协会	大 阪
文化、教育实业家	25	世界青少年交流协会	香 川

# 日程实施县地图





## 二、招聘青年的感想

### 访日感想



韩 万景  
地方产业技术实业家  
我能做为“为了二十一世纪友情计划“即”中国青年实业家邀请计划百人访日团”的

成员，感到非常荣幸。对给与我们这次访日机会，以及给与我们周到、热情、细致的安排及服务的国际协力事业团，在此表示衷心的感谢。

这是我第一次来日本，我是搞企业的，早在来日之前就得知日本的技术和管理高度发达。当11月19日刚一踏上日本的国土，就感觉到日本的快节奏。之后参观了武道馆和一些企业，使我感受到，日本不但在技术、管理上值得我们学习，民族精神和企业职工的凝聚力，同样值得我们学习。中国和日本的文化很相似，中国的文化对日本起到了非常重要的作用。现在中国很多自己的东西丢掉了，而日本却继承了下来。我相信，中国如果能继续继承那些有用的东西，同时吸取各国的经验，在不远的将来一定会强大起来的。

时间过得很快，转眼一个月的时间就要过去了，在这段时间里，虽然在饮食上有一些不适，但我觉得这次访日，收获很大，学习了一些管理经验，体验并了解了一些日本的文化和民俗，特别是体验到中日人民和青年的友谊与情感，这是我这次访日感触最深的。下面我举两个例子，一个是合宿，另一个是民宿。

在滨名湖与日本青年朋友合宿之前，我想恐怕没有共同语言。合宿开始后，使我大出预料之外，三天的时间原以为太长，后来反觉得时间太短了。我所在的3班，我同国府田、佐野、疋田、内川四位日本朋友，讨论从企业的管理、新产品的开发、产品的销售…，到日本与中国的青年的爱好、恋爱、结婚及风俗等等。使我基本上了解了日本，特

别是日本青年，同时也使日本青年更多地了解了中国。短暂的三天就要过去了，佐野先生因家中有事，不能参加晚上的欢送会，在临行前，哭着与我们拥抱分别…，这表明中日的友好，是实在的，不是空的。

在来日之前，得知有民宿安排，就很怵头。到12月8日，即将民宿时，知道由原定每个家庭1个人，改为2个人，得到这个消息后，高兴的我都要跳起来了。我的民宿主人叫林新太郎，当见面时，发现他的汉语会话水平与我的日语水平相当，只会说“谢谢”、“再见”等非常简单的话。当天下午，没有去饭店拉行李，林先生就直接带我们去参观了中部板南株式会社，在参观中，双方用简单的汉语、日语以及汉字、手势（没有翻译）进行沟通，双方基本能够理解对方的意思，这使我增强了不少信心。之后又参观了林先生自己的养殖场，晚饭后双方各自介绍自己及家庭等有关情况，这才得知，林先生在1973年曾做为“日本青年访华团成员”到中国访问，并受到周恩来总理的亲切接见，这突然使我们的心的贴近了，话题自然就多了。虽然语言不通，但心是相通的。次日早6点，林先生就带我们开始参观了大垣水产青果株式会社、揖斐川工业株式会社等。这里他们早就准备好的。这天晚7点才参观完回到家吃晚饭，一天参观了7个地方。目的是让我们多学习日本的企业经验，从技术等方面能够合作，及尽可能多体验日本的风俗，短暂的一天半时间，使我真正的感受到中日两国人民的友情，这种感受，较之滨名湖合宿更深，更强烈。是无法用语言和文字能表达的。

一个月的访日就要结束了，我越发地怕时间过得太快了，有一股恋恋不舍的感觉，越发觉得中日两国人民、青年的友谊之珍贵，这友谊不是空的，是实实在在的。中日两国青年，在两国社会制度不同的情况下，仍然建立了深厚的友谊，加深了对各自的了解和理解。我相信，双方一定会超越各自社

会制度，更加友好，这正是这次“为了21世纪友情计划”“中国青年实业家邀请计划百人访日团”真正的目的地所在，而这个目的地一定会达到的。



## 为和平祈祷——访日随笔



尚庆华

地方产业技术实业家

也许是上帝的偏爱，使我有机会做为友好的使者随中国青年百人访日团访问日本。了解世界各族人民，尤其是了解与中国一衣带水的邻邦——日本，是我多年的夙愿，今朝终于在JICA协力团的帮助下得到了实现。

在中国有一个古老的传说，相传中国皇帝为寻求长生不老药，炼丹求仙，选了500名童男童女，由大臣带领出海寻药。由于风浪太大，船在海上翻沉，大臣身亡，而500名童男童女却被海神救起，送到日本。从此，他们便在日本的土地上生儿育女，繁衍后代，生存下来，同时，也带来了中国的文明和文化。日本与中国是一棵树上的两只果子。这传说在访日的整个过程中得到了某种证实。

在中国有一个古老的传说，相传中国皇帝为寻求长生不老药，炼丹求仙，选了500名童男童女，由大臣带领出海寻药。由于风浪太大，船在海上翻沉，大臣身亡，而500名童男童女却被海神救起，送到日本。从此，他们便在日本的土地上生儿育女，繁衍后代，生存下来，同时，也带来了中国的文明和文化。日本与中国是一棵树上的两只果子。这传说在访日的整个过程中得到了某种证实。

在闪烁的灯光中，我们一行百人踏上了日本国土，马上便被日本特有的，与中国极其相似的文字所吸引，到处是夹着假名的汉字说明，使我感到习惯。同时，也使我产生了一种极强烈的感情冲动。中日两国同文同种，果然有了体现。中国人有句玩笑话：“中国人学日语学了认识一半，不学也认识一半”。看来此话不假。还是这种原因，使我一下子感到了这异国的可亲。

人们常说，了解是感情交流的基础，而感情交流是友谊的桥梁。带着友谊的使命和平的愿望，开始了日本的访问旅行。

工厂、农场、花圃，到处展示着日本人民勤劳的工作精神，交通、青山、高楼，遍地显示出日本人民创造的成果，欢迎会，讨论会，合宿交流，尽情地表明着日本人民的好客与善良，而这一切，在民宿的家庭里得到了集中的展示。

十二月七日下午，我们第一分团的团员集中在大垣市文化会馆的一楼大厅里，与民宿房东，相识

见面，然后分赴各家。我的房东叫早野寻司，是一个中年汉子。不知是性格的原因，还是语言不通，他的话很少。随他一起开车抵他家，他的妻子及孩子们，还有两位老人都非常热情，从安排上看，他们做了精心的准备，从睡衣、牙具到玩具、纸笔，以致于日程活动，都做了周密的安排。我们的交流一半是语言及汉字，而另一半则是心灵的沟通。这里，汉字、英语、手势三法并用，传达着友谊的信息，相互了解、互相理解，友谊的情感得到了升华。二天的民宿很快就过去了。九日早饭后，寻司先生给了我一个纸条写到：“我的祖先是保佑你交通安全”。这是一个日本式的汉语，但我还是明白了，他领我到了他祖宗的神牌前，为我们做了祈祷，我的眼睛里浸着泪水离开了他的家。寻司的一家是千万个日本家庭中极普通的一家，但他善良的心和渴望友谊的情感却代表着广大的日本人民。有这样善良的日本人民，21世纪的友情计划还怕不实现吗？同时我也在编织着一个友谊的梦，为在异国的土地上结识这许许多多的异国朋友而高兴。中日两国青年在原本就是弟兄的基础上，又添上了一份重重的感情的砝码。

友谊与和平是一对孪生姐妹，为了和平我们寻找友谊，为了友谊我们发展和平。友谊与和平的敌人是战争，战争扼杀着友谊与和平，为人类制造了巨大的灾难。人类为此付出了惨重的代价。广岛，一个美丽的城市，在它的市中心保存着一个完整的战争遗迹。当我看到被原子弹破坏的残墙断壁，看到一件件被烧烂的衣服，一段段烧干的树木，一群群失明的人群，我的心被强烈地震撼着。年轻的女教师抱着死去的学生，茫然地在哭泣。美丽的中学生捧着折好的千羽鹤，祈求着康健。战争的残酷和疯狂是和平时代的人们所不能接受和理解的。15万人口死在一颗原子弹中，广岛的惨象不由使我想起第二次世界大战中被侵略的中国，想起南京大屠杀，想起死去的千千万万的中国同胞，想起战争给中国人民带来的苦难。我痛恨战争！人类为什么要制造战争？为什么要吞食战争制造的苦难？兄弟之间为什么要兵戎相见？友好的邦邻为什么要受到侵犯？没有理由，只有野蛮，而这留给我们自己的只有痛苦的回忆。和平的火种在告慰着战争中死去的

无辜的人们，和平的鸽子传送着各国人民爱好和平的愿望。让我们共同祈祷和努力吧！愿世界永远没有战争，让和平的橄榄遍布世界的每一个角落。愿中日人民世代友好——和平。



## 访日小结



刘 拓

产业基础设施建设实业家

一、日本人民对中国人民是友好热情的。我们所到之处，都受到了日本朋友的热情、礼貌的接待，他们主动地向来客介绍当地的风土人情，生活习惯，同时，对中国的情况也表现出较强的求知欲望。

二、日本的经济的发展很快，已成为世界经济大国。工业自动化程度高，产品更新快，农业的许多生产环节已实现机械化作业，国民生产总值人均占有率居世界前列，人民的经济生活富裕。

三、日本人工作认真、条件、时间观念强。每干一项工作，都有较为周密的计划，并严格执行，很少发现有拖拉现象，表现出紧凑的工作作风。

四、日本人的钻研精神可嘉。他们很重视传统文化，但不是全盘照抄而是扬弃、发展，他们很重视外来文化、技术，但它是经过消化、提炼后，在新的水平上为我所用。

五、日本人的国家整体意识强。青年人有着“日本超越美国后向何方”的忧患意识，官僚机构极为注重国家的短腿经济如农业，投入大量的资金，扶持农业，国民似乎支持国家的主张。



## 访日感受



赵 贵生

产业基础设施建设实业家

这次访问日本国，印象深刻，感受甚多，归纳起来主要有以下几点：

1、日本是一个工业发达，经济雄厚的国家，有能力为亚洲发展中国家的经济发展做贡献。

2、日本社会生活条件比较优越，环境卫生条件、治安等方面比较好，城乡差别不大。

3、日本人民对中国人民有着友好的愿望和感情，这一点在岛根期间体会最为深刻。

4、日本的经济的发展是国民的工作勤奋，讲究时间效率、竞争机制的结果，比如：电力、电子工业、通讯、交通、第三产业等。

5、日本人工作安排的计划性很强，并且周密准时，从这次我们的访日活动中体会深刻，不论是JICA，还是青少年育成国民议会以及岛根县青友会的许多先生们和小姐们都为我们这次访日的成功，做了大量细致的工作，付出了艰辛的努力，为日中友好，为二十一世纪友情计划做出了贡献。为此我们于此机会表示由衷的谢意，希望日中友谊永远发展。



## 访日随想



吕 峻峰

经济·贸易实业家

我随中国青年实业家百人访日团，在日作了为期一月的访问，当我要离开这片陌生而又熟悉的国土时，我仿佛有什么遗失在了这里。几天来，我反复地思索、寻找……终于，当我参加民宿后在车上与房东挥手告别时，在闪烁的泪光中，我找到了——那就是一份与日本朋友结下的情谊。

从访日一开始，日方的几位协调员就忙前忙后地从各个方面无微不至地关心我们，是他们用辛勤劳动的汗水换来了我们在日度过的令人难忘的日日夜夜。在参观访问之余，我们与几位协调员一起唱歌、跳舞，加藤小姐的认真、松田小姐的亲切、福山先生的幽默、高尾先生的严谨，使我难忘。特别是福山先生的一席话，至今还在我的耳边回荡。十二月四日，我们参观广岛和平纪念公园时，福山先生的脸上没有往日俏皮的笑容，心情沉重地对大家说：作为一个日本人，他对日本侵略军在二次大战期间对中国人民的伤害表示深深地歉意……福山先生的话不正是道出了日本人民热爱和平的心声吗？！这不正是我们能结下友情的根源吗？！

在风景如画的富士山脚下，我们与日本青年无拘无束地谈论各自的工作，学习和生活，谈论我们的苦恼和欢乐。在短暂的时间里，我们同许多日本青年结为朋友。值得一提的是当合宿结束后，一天当我们准备乘车去广岛时，在东京车站与合宿时认识的米山先生不期而遇，惊喜之余，我有一种世界这么大、又这么渺小，是什么的旨意能让我们在这小小的空间相遇的感觉。米山先生见到我们也十分高兴，马上买来了桔子送给我们，望着米山先生匆匆远去的背影，我感到有根友谊的红线把我们紧紧地连在一起了。

民宿是我们访日活动中的最后一个活动，我和其它团员一样既想往又紧张，但当我与房东松本先生一家见面时，不知为什么，我仿佛见到了久别的亲人。在松本先生家，当我把从中国带来的小礼品送给松本先生时，望着他们孩童般的笑脸，我似乎回到了思念而温馨的家。在松本家我们虽然不能用语言交流，但我们靠文字、手势、表情等很快找到了共同的话题——谈论三国时期的历史人物、事件、谈论毛泽东、朱德的伟大，谈论诗人李白、杜甫的诗句……两夜三天的民宿活动转眼间就结束了，但我不想说再见。因为我们已建立了深厚的感情。正如松本夫人说的：“虽然我们之间语言不通，但我们的心是相通的”。

是啊！通过一个月的访问交流，我感到：我们与日本人民的心是相通的，让我们这段扯不断的情谊把日本人民和中国人民的心永远相连，让我们世代地友好下去。



### 最难忘广岛的和平钟



陈启涛

经济·贸易实业家

我一乘上北京飞往东京的日航班机，就感到了日本现代化的气息。当我看到偌大的成田空港，随车顺着灯光闪烁、车如流水的高速公路开进不夜城东京，住进豪华的大都会饭店的时候，我在飞机上产生的印象更加深了。我曾读过一些关于日本历史和现状的书，也了解日本战后经济发展

的速度，但确实是百闻不如一见，一见才知道现代化原来如此。

我赞美日本的现代化，更钦佩勤劳智慧的日本人民，是他们用匆忙紧张的劳动汗水，浇开了现代文明之花。我会把自己的访日印象带回去，宣传给周围的人们，以日本人民认真劳动的精神去建设自己祖国的现代化。

逗留日本的时间已经过去了，许多美好的印象烙在了记忆之中。我难忘大阪城恩地正浩先生一家6口人招待我的诚挚盛情，先生的父母亲为我送行时的频频挥手，使我感动得流泪，我理解中日两国普通人民之间的友好心情。我难忘富士山下一道合宿的日本伙伴，那里有我们留下的欢声笑语。我难忘直接安排这次活动的日本朋友，福山先生的舞姿，松田、加藤小姐的微笑还历历在目，他们付出了辛劳。我难忘武藏野甘美的啤酒和追浜工厂繁星般的汽车；我难忘上野公园的樱花树和栗林公园的大金鱼；难忘如画的岚山风景和庄重的周恩来总理诗碑；难忘高耸的东京塔，难忘雄伟的濑户桥……。

然而我最难忘的却是广岛的和平钟——和平公园里那口高高悬挂在苍穹里的极不寻常的钟。面对这口钟我仿佛看到了十几万人的生命在原子爆炸声中毁灭的惨景，仿佛看到了侵略战争给中国人民带来的灾难，看到了我死去了的中国同胞。面对这口钟，我深切感到和平是人类的第一需要，是现代化建设的前提，没有和平，就没有经济的繁荣、世界的发展、人民的幸福，没有和平地球将会遭到多么大的灾难！面对这口钟，我注视着四十六年前残留下来的广岛圆顶屋，顿时感到了年轻一代的历史责任，要靠我们来维持新的世界和平。我曾昂首走向和平钟，极尽全力去击撞她，我要让她的声音响彻太平洋，传播到五大洲的各个角落。我祈祷，愿这钟声带来福音，再也听不到炸弹藐视人类所发出来的狰狞狂叫，听不到废墟里婴儿呼喊妈妈的啼哭声。我愿这钟声唤醒面向21世纪的一代青年，唤醒世界大家庭中的每一个成员，在和平中携起手来，去建设各自美好家园的未来。

我还希望来日本，希望看看北海道和仙台县鲁迅先生纪念馆，看看邻邦现代化建设的新风貌；我





正体会到一种遇到知己的愉悦。最后一晚，为我们饯别的家宴后，岛田先生又在纸上写道：愿李先生、詹先生的国家繁荣昌盛。身在他乡得到一位异国朋友这样火热的祝愿，真令我感激的热泪盈眶！中日两国人民的友好交往完全可以逾越语言的障碍，超越不同的社会体制。

为我们的民宿活动，岛田先生作了精心的安排。他长途驱车带我们拜访茶道老师，让我们体味日本茶道。还安排我们参观坂出发电所，受到他的同事们的热烈欢迎和热情招待。特别令我们不安的是十二日晚联欢晚会结束后，岛田先生赶回发电所上夜班，第二天一早，下夜班后他又赶到高松站来为我们送行。我和李先生再三劝阻，他都不听。岛田先生在与我们笔谈中把中日两国比喻成两株大树，枝繁叶茂。把两国人民之间的友好往来比喻成根的事业。岛田先生为了做好根的工作，付出多少心血啊！

对于岛田先生的父亲，只记得有一晚，他兴冲冲地上楼来到我们与岛田先生交谈的屋子，告诉我们电视里正在放一位日本歌星的演唱。打开电视机，他便随着放声高唱起来。

对于岛田先生的母亲，我只记得她不停地为我们烫酒、准备点心，端上楼来。还有临别那天晚上，李先生下楼看到她在厨房里默默地流泪……

岛田先生今年35岁，尚未结婚。我问起缘故时，他说象他这样的男人，不是现在的日本女性所喜欢的。有一天晚上，来了电话，他与对方谈了二十分钟左右。放下话筒便告诉我们，是他女友从东京来电话。还说，他结婚的时候，要去中国旅行。岛田先生，我衷心地祝愿你早日建立美满的家庭，当你和你的新婚妻子来到中国时，我会象对待亲兄弟一样迎接你——正象我在日本受到你的热情友好的接待一样！岛田先生，我在日本盼望着这一天的到来！

## 对日本人民的印象



尹晓红

文化·教育实业家

有幸做为91年中国百名实业家访日团教育分团的一员，到日本进行为期一个月的访问。在

即将归国之际，不禁扪心自问，三十个日日夜夜，你有什么收获？于是闭目静思……，每一项活动都有收获。然而，给我留下最深刻印象的还是日本人民。

1、日本人民文明有礼。日本的城乡，治安良好，卫生清洁，树木成荫，河水明净，空气清新，景色迷人。我认为，除地理条件外，与日本人民自觉遵守社会公德，爱护公共设施及自然环境的良好素质密不可分。在日本，人与人礼貌相待已成为一种社会风气。父母与子女之间、同事之间、上下级之间、甚至陌生人之间，问候致意随时随处可见。在我民宿的家庭有位四岁男孩，妈妈每为他做一件事，他都说声谢谢，对来访的客人也很礼貌，早上问好，晚间道安。从这些现象不难得出一个结论：日本是一个礼仪之邦。

2、日本人民真诚友好。访口所到之处，时刻伴随着日本人民的友好情谊，即使是走在大街上。有一天，我和我的同伴迷路了，一位日本老人宁可以自己绕道而行，一直把我俩送到住所才放心离去。更令我感动的是，我亲耳听到许多日本朋友对中国人民真诚的道歉，他们认为，反省过去，是中日两国人民建立真正睦邻友好关系的基础。在民宿活动中结识的行成先生还向我表达了对中国人民的致谢，感谢中国人民将战后遗留在中国的日本孤儿精心抚养成人。日本人民对中国人民的真诚友好态度，使我坚信，两国人民世代友好下去的愿望一定会实现。

3、日本人民勤奋工作的精神。我所接触的日本人，大都对社会有责任感。东京农业大学一位学生在谈为什么报考农大时说，目前日本的粮食很多靠美国进口，如果有一天美国无力再援助我们，日本人民将会挨饿，所以，我们必须发展自己的农业。多数日本人清醒地意识到本国国土狭小，资源

贫乏，也许正因为有危机感，才产生紧迫感，日本人生活节奏快，工作效率高，他们自觉、勤奋地服务于本集团，不以为苦，反以为乐。工藤先生就是这样的人。他在中学教地理，历史两门课，每周授课二十二节，并且担任班主任，兼学年主任。他常常工作至深夜，早晨七点半又匆匆赶到学校做课前

准备，尽管日本的学校早八点半才上课。由此，我似乎理解了日本为什么迎来经济飞速发展的今天。

三十天时光转瞬即逝。很难用语言表达我对日本人民的良好印象，千言万语汇成一句话，衷心祝愿两国人民的友谊地久天长。



### 三、参加合宿研讨会的日本青年的感想

#### ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● 参加“合宿讨论会”

米山 秀幸  
社员

当决定让我参加合宿讨论会时，想到这次将会有新的体验，高兴得不得了。

当天，到达集合地点海员球场时，首先想到的是事前参加过以日本人为对象的进修会，对我可有帮助了。因为也许是日中两国地理性的关系，两国人长得很象，如果不是事先有机会跟日方参加人员见面，当天日中两国全体参加人员首次站在一起，我就看得出来谁是中国人，谁是日本人。

那且不论，这次使我最为难的还是语言障碍。按班进行讨论时，有翻译人员就没问题，但在自由时间或吃饭时，如果没有人给我翻译，我就只能总是笑，虽然心里说着：“我本来很想跟你们聊天，很可惜我不会说中国话。我决不是不理你们的，请多谅解。”

尽管语言不通问题，这次我仍渡过了非常愉快而有意义的四天。

讨论会上，多亏翻译人员的帮助，我们谈到了各种各样的事，比如生活方面、风俗习惯、工作内容，甚至有恋爱故事，通过畅谈进一步加深了友谊。

给我留下最深的印象是一面眺望着雄伟的富士山，一面散步的那时刻。

“富士山这么美丽很难得，这说明富士山也是热烈欢迎大家的”，因为与中国朋友在一起心里非常愉快，我情不自禁地说出平时不敢说的这种话。

讨论会最后一天的晚上举行了晚会。

由于我被选为晚会委员，对装饰、演出节目等大伤脑筋，但正如俗语所说的那样，真是“车到山前必有路”，装饰大家分头去做，演出节目由于中方委员出了个好主意，晚会的气氛热烈起来。

这次讨论会只进行了四天，虽然时间仓促，但

是我为能有机会参加这种活动感到满意，并且我想把这次的体验讲给许许多多的人。

#### ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● 参加合宿研讨活动

小平 恩子  
学生

我有幸参加了自11月30日起为期三天的热海合宿研讨活动和接待访日中国代表团（文化和教育方面人士）的重要工作。报名的时候，我想的很简单。但是，在事前研修过程中方才感到事情重大，不知所措。代表团从中国远道而来，而且，仅逗留一个月时间。怎么使朋友们在短暂的时间里过得有意义，我们决心做出最大的努力。

我们大家大多是既不懂中文又没有什么经验的学生。但是，事实比想像的容易得多。语言的障碍很快就被诚心和智慧所战胜，感到我们的心被彼此的诚意沟通了。代表团的朋友们十分满意。虽然时间短，日程紧，但是，没有遇到什么困难便达到了亲密交流的目的。

有言道「一期一会」。也许代表团的朋友们只有这一次来日本的机会。在归国前欢送会上，有的朋友针对「一个月访日期间印象最深刻的事情是什么？」的问题回答说「是在热海的合宿」时，我深深地感到虽然工作紧张，却收获很大。

亲身体会到了「只要努力，诚意即可贯通」，语言和文化之壁是阻碍不了交流的。我真是幸福极了。我从今年起将去中国留学，这三天时间给我这个将赴海外的青年留下了珍贵的记忆。今后，我也一定努力奋斗。



朋友交流了。这次，该轮到我不热心招待了。为了两国人民互相了解，我希望他们把日本的优点和他们亲眼看到我们的这些日子传达给更多的中国人。

此次，见到了教育工作方面的25名中国朋友。他们的年龄与我们相近，大家很快便融合在一起了。一起睡觉，一起吃饭，一起洗澡，一起喝酒。对方不介意，我也象是对老朋友一样畅所欲言。我诚心希望他们多了解一些今天的日本和学生。同时，还希望他们知道我们聚集在这里是为了与他们交流，是为了理解他们。

回国前一天的晚上，一位朋友对我说：「为了见你，为了见你们，我们化时间来到了日本。」这正说明了我、我们所想的传达到了对方。我心中的友谊计划取得了巨大成功。对方的话语正中我的心思。于是，我说：「这是日本的啤酒券，我把它送给你。当然，在中国不能用。你留着，等再来日本的时候，我们一起喝酒。」

他和其他的朋友们回国了。现在，每一个人过着各自的生活。他们25个人一定正在把日本的情况，把我们的事讲述给他们的朋友们。

最后，我想对给我这次参加友谊计划机会的有关人士表示谢意。谢谢！

## 友谊计划 参加合宿有感

平野 爱  
团体职员

连我自己也吃了一惊。当合宿结束，中国青年乘上汽车告别的时候，我不觉热泪盈眶，久久不能平静。仅三天的时间却是那样地令人难以忘怀。

合宿活动在热海的一家饭店举行。参加者有中国教育、文化方面的实干家25名和日本青年25名。我接触中国人这并不是第一次。但是，从前接触的都是日语流利，长期在日本生活的人。对这次与初来日本，语言又不通的人们一起合宿研修，多少有些不安。

我没有学过中文。既不会说也不会写。但是，中国是汉字之国。虽然文法不通，但汉字多少可以传达意思吧。于是，我拿着笔和小本本参加了这次活动。不同的文化、不同的习惯和不同的职业等等，所有话题都写在纸上交流。尽管表现过于直率、简单、语不贯通，热情和诚意沟通了彼此。笔谈会话热闹极了。

笔谈用了十几张报告文纸，正反两面密密麻麻无一空处。它是我的宝贝。它给了我勇气和自信。

日本和中国都有着一段悲痛的历史。虽然历史不可以抹销，但是，参加研修的青年们对过去历史反省的谦虚态度和对未来的憧憬，必定将培育两国的友好关系，不会断绝。这便是21世纪友情计划留给我，留给全体参加者的最深的感触。

流泪并非离别之悲痛，并非伤心，我相信它是出自于向参加者、向合宿研修活动的感谢之情，这次活动使我思考了许许多多。

## 四、民宿主人的感想

迎接来自中国的客人

加藤 博通  
岐阜县

根据本计划中国客人住在我家，这是第二次。

首次是中国派到日本企业的进修生，由于他懂日语，那时我们都毫无不安的感觉。

看来这次情况不一样，听说这次的中国客人只会说中国话，我们都不知怎样接待来访者才好。但在接待客人之前举行的说明会上知道两位中有一位精通英语，我们夫妇才放心了。我们曾经几次接待过英语地域的客人。

出席了说明会还知道做什么样的菜款待两位客人好，他们想去什么样的地方等等，还学了一些中国话，这才做好了接待准备工作。

迎接两位中国客人的那天来到了，他们都是二十多岁的青年。他们长得象日本人，如果在街上谁也看不出他们是中国人。于是我们感受到了日本和中国是邻邦国家。

我们的两个孩子弹了电子琴给大家听，又世界地图来找他们的出生地。

第二天，我们全家陪着他们一同去看了日本古城，晚上又去打了保龄球。虽说他们是第一次，但领会得很快，有时也一次投球击倒全部木柱，看起来他们渡过了一个愉快的晚上。

他们中有一位很喜欢我家孩子的电视游戏机，听孩子说他还把它带进被窝里玩到深夜。

这样，这次的“家庭访问日程”圆满结束了。

分手时，我们都约好今后继续联系、通信来往。

我一家人都真心希望我们今后将能再会。

有朋自远方来，不亦乐乎

林 新太郎  
岐阜县

中国地域产业技术实业家中，有两位到我家里来作客了。一位是长江生产科学院院长吴祖发先生，另一位是天津市武清县长青保鲜产品厂厂长韩万景先生。

据说中国自古以来有“一见如故”——见面就作为老朋友看待的说法，也有句俗话说“有朋自远方来，不亦乐乎”。

因此，我家人都以象与旧友重逢那样的心情盼望客人来，高兴得坐卧不宁。

决定参加这次活动以来，我一家人有时间就看“为迎接二十一世纪的友情计划”手册，并且努力尽量学了一些简单的中国话，以便能交流。

然而，那天与两位一见，一家人都把那些一心学好的中国话忘得干干净净，不由得用日语打起招呼来，我们忘了两位是中国人了。

我事先听有人说全体成员中就数那两位洋溢着求知欲，是今后肩负中国前途的有为青年，那天我一见面就感觉到完全是那样。

这次我为两位安排日程时首先想到要竭尽全力协助他们圆满地完成进修任务，因此安排了参观大垣食肉加工厂、生物工艺学研究设施农场、公共批发市场、养鱼场、琵琶湖淡水珍珠养殖场等。

在参观单位，两位提出各种问题，对对方的说明不能理解时，他们就问到底，直到获得满意的回答为止。他们那份热心真可令人佩服。

回到家里，如同俗话所说的“入乡随俗”，客人们和我们一起品尝妻子做的家常饭菜，晚上也并不介意铺盖旧被褥睡觉，就象一家人一样。

虽然有语言障碍问题，由于日中两国人都懂汉字，我们主要是用笔谈方式来使心意相通，笔谈不能沟通时便凭第六感来理解了对方的意思。

也有这样的事，我写了“また手紙くださいね（请来信）”，他们就教给我汉语“手纸”是“トイレットペーパー（厕所用纸）”的意思。

通过笔谈，我们交换着各种感兴趣的话题，从中国的现状、各自的工作、到对未来的憧憬……一聊起来就聊到深夜。这段愉快时光令人难忘。

“有聚必有散”。和客人们相聚的三天两宿不知不觉地过去，转眼便到了合宿家庭在饭店为客人送别的时候。欢送会上，按司仪的要求，我们一起唱了两首歌曲，一首是日本歌“北国之春”，一首是去中国时学会的令人怀念的中国歌“我爱北京天

安门”。

与中国青年一起渡过的这段短短的合宿时光就这样结束了，给我们留下了许多愉快的回忆。

中国有句俗话说“饮水不忘掘井人”。我们能够和一衣带水的邻邦——中国，有象今天这样的亲密的交往，应该衷心感谢那些为日中友好呕心沥血的人们，今后，我们一定要把建立起来的日中友好事业继承发扬下去。

最后，衷心祝愿日中友好万古常青。

再见！



## 实施情况等资料

## 一、在京日程

	上 午	下 午	地 点
第一天	开幕式	日程说明 答疑	中日青年友好交流中心
第二天	说明会 关于国际协力事业团的说明 乘飞机手续的说明 观看日本电影	分组说明会 分组日语学习	"
第三天	讲座《日本概况》	参观松下显像管厂 欢送会	"

## 二、中国实业家邀请计划实施情况一览表

### ●1990年度(100名)

	人数	实施团体	实施县	JICA 支部	地方协助团体	县等接待单位	日程调整员	JICA 陪同
地方产业技术 实业家	24	全国农村青少年 教育振兴会	岐阜	中部	岐阜县农业指导 士联络协议会	农 政 部 农业技术科	金田三部 藤田忠雄	山本知里 张爱平
产业基础设施 建设实业家	25	青少年育成 国民会议	广岛	中国	青少年育成 广岛县民会议	民生部青少年 对策室·青少年 妇 女 科	山崎 武	村田好子 黄丹青
经济贸易实业家	25	青年工作能力 开发协会	冲绳	冲绳	冲绳县国际 交流财团	总务部知事办 公 室 国际交流科	福山敦夫	邵春芬 桥本和子
文化、教育实业家	25	世界青少年 交流协会	德岛	四国	德岛县青年 海外派遣会	企划调整部 青少年妇女室	白井千里	加藤洋子 李 珊

### ●1991年度(100名)

	人数	实施协助团体	实施县	JICA 支部	地方协助团体	县等接待单位	日程调整员	JICA 陪同
地方产业技术 事业家	25	中央青少年团 体联络协议会	岐阜	中部	大 垣 市 国际交流协会	总务部总务课	关 保刚	黄丹青 山下智子
产业基础设施 建设事业家	25	青少年育成 国民会议	岛根	中国	岛 根 县 国际交流青友会	总务部总务课 文化国际室	森田 广	高木晶子 邵春芬
经 济 贸 易 事业家	25	青年工作能力 开发协会	大阪	关西		生活文化部 青 少 年 课	福山敦夫	加藤洋子 松田安子
文 化、教 育 事业家	25	世界青少年 交流协会	香川	四国	香 川 县 海外派遣朋友会	总 务 部 国际交流课	白井千里	渋谷千春 八木 环



### 三、具体活动日程

地方产业技术考察团(1991年度)

月日	星期	日	程	实施地点
11/19	星期二	抵日	生活须知简介	东 京
20	" 三	本次访日活动简介 开幕式 午餐会 团体日程安排简介	日语学习	"
21	" 四	讲义《日本与中国》	参观国立历史民俗博物馆	"
22	" 五	日语学习 讲义《日本的产业结构与地区发展》	鉴赏武术表演 联欢会	"
23	" 六	实地日语学习说明会	实地日语学习	"
24	" 日		<自 修>	"
25	" 一	参观日产汽车公司		"
26	" 二	参观东芝科学馆	参观横滨山下公园 参观东京塔	"
27	" 三	参观国会议事堂	参观东京证券交易所	"
28	" 四	访问东京青年会议所	参观NHK广播电视中心	"
29	" 五	赴滨松	参观富士自然动物园 合宿研讨会开幕式	静 冈
30	" 六	报告《静冈县的地方产业》	分组讨论I 分组讨论II 交流晚会	"
12/1	" 日	娱乐活动	分组讨论总结 讨论结果发表会	"
2	" 一	参观橘子园·桃果场	参观河合乐器工厂 参观用鱼养殖场	"
3	" 二		赴大垣	岐 阜
4	" 三	拜访大垣市政府 关于大垣市产业对策的说明	参观大垣市内产业设施	"
5	" 四	参观花卉总合指导中心	参观东浓酪农农业协同组合联合会奶酪畜牧设施	"
6	" 五	游览惠那峡	游览名古屋 中间总结会	爱 知
7	" 六	体验日本花道·茶道·古琴	民间交接仪式	岐 阜
8	" 日		<民 宿>	"
9	" 一	参观浅野养鸡场 参观雨宫神社 参观关原石材厂	参观大垣农业高中 与当地青年进行交流	"
10	" 二	访问大垣市农业协同组合·西南农业改良普及所	保龄球比赛	"
11	" 三	参观粮谷等干燥调制贮藏设备 参观民俗资料馆 参观三洋电机工厂	中间总结会 欢送会	"
12	" 四	赴京都	参观二条城、岚山、金阁寺、古代友禅苑	京 都
13	" 五	赴大阪 参观松下自行车工厂 游览大阪	与大阪国际服务中心的成员进行交流	大 阪
14	" 六		赴广岛	广 岛
15	" 日	参观和平纪念公园·原子弹资料馆	游览宫岛·严岛神社	"
16	" 一	返东京		东 京
17	" 二		<回 国 准 备>	"
18	" 三	回国说明、办各类手续	评价会 欢送会	"
19	" 四	回国		"

产业基础设施建设考察团

月日	星期	日	程	实施地点
11/19	星期二	抵日	生活须知简介	东 京
20	" 三	本次访日活动简介 开幕式 午餐会 团体日程安排简介	日语学习	"
21	" 四	讲义《日本与中国》	参观国立历史民俗博物馆	"
22	" 五	日语学习	讲义《日本的产业与经济》 鉴赏武术表演 联欢会	"
23	" 六	实地日语学习说明会	实地日语学习	"
24	" 日		<自 修>	"
25	" 一	参观日产汽车公司		"
26	" 二	访问青少年育成国民会议(讲义) 午餐会	访问国土厅(讲义)	"
27	" 三	访问农业总合研究所(讲义)	参观全农东京生鲜食品集散中心	"
28	" 四	访问奈良机械制造厂(讲义)		"
29	" 五	赴富士吉田	合宿研讨会开幕式 交流晚会	山 梨
30	" 六	分组讨论 I	分组讨论 II 体育交流 烹调交流	"
12/1	" 日	讨论结果发表会	游览箱根 返东京	"
2	" 一		<自 修> 赴岛根	东 京
3	" 二	地方活动日程说明会	访问日本人家庭	岛 根
4	" 三	参观鹿岛水产试验场	与岛根县政府职员开座谈会	"
5	" 四	参观中海排水开垦地 参观三菱农机工厂	与当地青年开体育交流会·联欢会	"
6	" 五	参观都筑纺织出云工厂 拜访益田市政府欢迎宴会/拜访砚町政府		"
7	" 六	参观机场、农地开发基础设施 保龄球比赛/参观砚地方产业设施	欢迎宴会	"
8	" 日		<民 宿>	"
9	" 一	赴出云	参观出云神社 参观林业技术中心 晚餐会	"
10	" 二	参观广濑幼儿园	午餐会 访问情报科学高中 欢送宴会	"
11	" 三	拜访岛根县政府 参观松江城堡	参观日本红十字血液中心·医院	"
12	" 四	参观松江消防本部		"
13	" 五	赴广岛	参观和平纪念公园·原子弹资料馆	广 岛
14	" 六	赴京都	参观岚山、金阁寺、清水寺	京 都
15	" 日	赴奈良	参观东大寺、春日大社、兴福寺	奈 良
16	" 一	返东京		东 京
17	" 二		<回 国 准 备>	"
18	" 三	回国说明、办各类手续	评价会 欢送会	"
19	" 四	回国		"

经济贸易考察团

月日	星期	日	程	实施地点
11/19	星期二	抵日	生活须知简介	东 京
20	" 三	本次访日活动简介 开幕式 午餐会 团体日程安排简介	日语学习	"
21	" 四	讲义《日本与中国》	参观国立历史民俗博物馆	"
22	" 五	日语学习	讲义《日本的产业与经济》 鉴赏武术表演 联欢会	"
23	" 六	实地日语学习说明会	实地日语学习	"
24	" 日		<自 修>	"
25	" 一	参观日产汽车公司		"
26	" 二	访问通商产业省	访问日本贸易振兴会 参观东京塔	"
27	" 三	访问经济团体联合会	参观拉港商业中心·富士通展示馆	"
28	" 四	参观东电学园	参观三得利武藏野酿酒厂	"
29	" 五	赴富士吉田	合宿研讨会开幕式 交流晚会	山 梨
30	" 六	基调报告	分组讨论 I 分组讨论 II	"
12/1	" 日	按小组游览河口湖	告别宴会	"
2	" 一	体育交流	返东京	"
3	" 二		<自 修>	东 京
4	" 三	赴广岛	参观和平纪念公园·原子弹资料馆	广 岛
5	" 四	赴冈山	参观濑户大桥 赴高松	香 川
6	" 五	访问四国通商产业局(讲义)	参观栗林公园	"
7	" 六	赴京都	参观岚山、平安神宫	京 都
8	" 日	参观金阁寺、古代友禅苑、清水寺		"
9	" 一	赴大阪 地方活动日程说明会 参观万国博览会纪念公园·日本式庭园(体验茶道) 参观国立民族学博物馆		大 阪
10	" 二	拜访大阪府政府(讲义) 参观大阪商品展览会会场 参观海游馆(水族馆) 欢迎宴会		"
11	" 三	访问松下电气产业公司	参观堺蔬菜批发市场	"
12	" 四	按小组参观·考察 ①教育 ②社会福利 ③文化 ④和平交流 ⑤公共宣传媒介)与当地青年进行交流		"
13	" 五		交流晚会 民宿交接仪式	"
14	" 六		<民 宿>	"
15	" 日	民宿	欢送宴会	"
16	" 一	返东京		东 京
17	" 二		<回 国 准 备>	"
18	" 三	回国说明、办各类手续	评价会 欢送会	"
19	" 四	回国		"

文化、教育考察团

月日	星期	日 程	实施地点
11/19	星期二	抵日 生活须知简介	东 京
20	" 三	本次访日活动简介 开幕式 午餐会 团体日程安排简介 日语学习	"
21	" 四	讲义《日本与中国》 参观国立历史民俗博物馆	"
22	" 五	讲义《日本的教育》 日语学习 鉴赏武术表演 联欢会	"
23	" 六	实地日语学习说明会 实地日语学习	"
24	" 日	<自 修>	"
25	" 一	参观日产汽车公司	"
26	" 二	访问世界青少年交流协会 参观国会议事堂	"
27	" 三	参观东京塔 参观银座 参观东京证券交易所 参观浅草	"
28	" 四	访问东京农业大学(参观农场、与教员·学生开交流会)	"
29	" 五	拜访川口市政府 访问青木中央小学 访问川口高中	埼 玉
30	" 六	赴热海 合宿研讨会开幕式 自我介绍	"
12/1	" 日	报告《日中交流的未来》 在街头进行民意调查 民意调查结果发表会	"
2	" 一	分组讨论 讨论结果发表会 交流晚会	"
3	" 二	赴高松 地方活动日程说明会·香川县概略说明会 欢迎宴会	香 川
4	" 三	参观屋岛·四国村 拜访香川县政府 参观栗林公园	"
5	" 四	访问大手前高中 参观四国电力公司九龟营业所 访问日本少林拳联盟本部 访问香川第一初中(交流会)	"
6	" 五	访问本四国公园早鸟管理办公室 参观濑户大桥纪念公园 参观濑户内海历史民俗资料馆 民宿交接仪式	"
7	" 六	<民 宿>	"
8	" 日	<民 宿>	"
9	" 一	民宿 参观中学生的野外学习	"
10	" 二	访问高松高等技术学校 与当地青年进行体育交流	"
11	" 三	参观游乐同“雷欧玛世界” 地方活动日程总结会 欢送宴会	"
12	" 四	赴广岛 参观和平纪念公园·原子弹资料馆	广 岛
13	" 五	游览宫岛·严岛神社	"
14	" 六	赴京都 参观古代友禅苑、金阁寺、岚山	京 都
15	" 日	参观宇治平等院、奈良东大寺、二条城、西阵织会馆、清水寺	"
16	" 一	返东京	东 京
17	" 二	<回 国 准 备>	"
18	" 三	回国说明、办各类手续 评价会 欢送会	"
19	" 四	回国	"

## 四、1991年度青年招聘事业实施情况一览表

招聘时间	国 名	领 域	人数	实施协助团体	实施县	
5月14日~6月13日 第1批 120名	马来西亚	勤劳青年	20	青年工作能力开发协会	高知 福岛 茨城 大分	
	"	学生	20	日本国际生活体验协会		
	菲律宾	学生(农业)	20	全国农村青少年教育振兴会		
	"	教员	20	国际交流服务协会		
	泰国	勤劳青年	20	勤劳厚生协会		
5月28日~6月27日 第2批 160名	东盟混合团	学生	30	日本青年旅馆协会	长野 山形 岐阜 福岛 鹿儿岛 北海道	
	"	教员	25	日本科教文协会连盟		
	文莱	教员·学生	20	世界青少年交流协会		
	印度尼西亚	教员	25	青年海外协力协会		
	新加坡	A组	20	青年工作能力开发协会		
7月2日~8月1日 第3批 134名	菲律宾	勤劳青年I(产业)	25	日本经济青年协议会	长崎 佐贺 富山 爱媛	
	"	B组	20	青少年育成国民会议		
	新加坡	青年指导者	22	日本国际生活体验协会		
	"	公务员I	22	国际交流服务协会		
	泰国	青年指导者	25	日本青年团协议会		
7月9日~8月8日 第4批 98名	南朝鲜	青年指导者	19	青少年育成国民会议	三山 重口 绳山	
	"	教员	20	日本科教文协会连盟		
	"	勤劳青年	28	勤劳厚生协会		
	"	学生	31	世界青少年交流协会		
	东盟混合团	公务员I	27	国际交流服务协会		岩手 京都 兵库 奈良 静冈
印度尼西亚	勤劳青年	25	勤劳厚生协会			
"	B组	20	日本青年旅馆协会			
马来西亚	农村青年(公务员)	20	全国农村青少年教育振兴会			
"	B组(青年指导者)	25	青年海外协力协会			
8月20日~9月19日 第5批 161名	新加坡	勤劳青年	21	日本经济青年协议会	九州 山梨 鸟富	
	"	公务员II	23	青年工作能力开发协会		
	东盟混合团	公务员II	30	青少年育成国民会议		九州 山梨 鸟富
	菲律宾	勤劳青年II	23	青年海外协力协会		
	"	A组	19	日本国际生活体验协会		
泰国	农村青年	25	中央青少年团体联络协议会			
8月27日~9月26日 第6批 117名	"	B组	20	日本青年团协议会	大分 北海 新潟 栃木 本	
	巴布亚·新几内亚	教员	20	日本国际生活体验协会		
	"	青年指导者	10	日本青年旅馆协会		
	斐济	公务员	12	世界青少年交流协会		
	太平洋混合团	公务员	22	国际交流服务协会		
9月12日~10月8日 第7批 74名	"	教员	10	日本科教文协会连盟	网走 山形 广岛 新潟	
	东盟混合团	A组	9	日本经济青年协议会		
	印度尼西亚	农村青年	20	全国农村青少年教育振兴会		
	"	学生	20	日本友交青年协会		
	马来西亚	教员	20	日本青年旅馆协会		
10月1日~10月31日 第8批 94名	"	A组(公务员)	25	世界青少年交流协会	青森 爱媛 北海道 山形	
	孟加拉国	教员	20	日本科教文协会连盟		
	不丹	"	15	青年海外协力协会		
	尼泊尔	"	30	世界青少年交流协会		
	印度	"	15	青年工作能力开发协会		
10月17日~11月12日 第9批 100名	马尔代夫	"	15	青年工作能力开发协会	冲绳 福岛 青森	
	斯里兰卡	"	20	国际交流服务协会		
	巴基斯坦	"	20	国际交流服务协会		
	中 国	公务员	25	国际交流服务协会		冲绳 福岛 青森
	"	青年指导者	25	日本科教文协会连盟		
"	经济青年	25	日本经济青年协议会			
"	教员	25	青年海外协力协会			
11月5日~12月5日 第10批 100名	中 国	地方产业技术实业家	25	日本青年旅馆协会	岐阜 岛根 大分 香川	
	"	产业基础设施建设实业家	25	青少年育成国民会议		
	"	经济贸易实业家	25	青年工作能力开发协会		
	"	文化、教育实业家	25	世界青少年交流协会		
	"	"	25	世界青少年交流协会		
合 计	东盟6国(786) 太平洋各国(74) 南朝鲜(98) 南西亚洲各国(100) 中国(200)			58个分团 1258名		

(A组考察内容) 环境问题

(B组考察内容) 社会福利

## 五、青年招聘事业实施协助团体等地址

(社)青少年育成国民会议 ((社)青少年育成国民会議)

National Assembly for Youth Development (NAYD)

3-1, Kamizonochō, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo

(財)世界青少年交流协会 ((財)世界青少年交流協会)

The World Youth Visit Exchange Association (WYVEA)

〒111 Iwasaki Bldg., 1-7-2, Asakusabashi, Taitō-ku, Tokyo

(社)日本国际生活体验协会 ((社)日本国際生活体験協会)

Japanese Association of The Experiment in International Living (EIL)

Tachibana Bldg., 6F, 4-5, Kojimachi, Chiyoda-ku, Tokyo

(社)全国农村青少年教育振兴会 ((社)全国農村青少年教育振興会)

The Rural Youth Education Development Association

Sue Bldg., 3F, 4-19, Shin-ogawachō, Shinjuku-ku, Tokyo

(社)日本经济青年协议会 ((社)日本經濟青年協議会)

The Junior Executive Council of Japan (JEC)

3-1, Kamizonochō, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo

(社)勤劳厚生协会 ((社)勤勞厚生協会)

The Working Youth Welfare Association

3-1, Kamizonochō, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo

(財)青年工作能力开发协会 ((財)ユースワーカー能力開発協会)

Development Association for Youth (DAY)

Hibiya Bldg., 6F, 1-1-1, Shinbashi, Minato-ku, Tokyo

(社)国际交流服务协会 ((社)国際交流サービス協会)

International Hospitality and Conference Service Association (IHCSA)

The 1st Annex of the Foreign Ministry, 2-2-1, Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo

(社)青年海外协力协会 ((社)青年海外協力協会)

Japan Overseas Cooperative Association (JOCA)

Dai-2 Sano Bldg., 6F, 5-10-24, Minami-azabu, Minato-ku, Tokyo

日本青年团协议会 (日本青年団協議会)

Japan Seinendan Council

Nihon Seinenkan 2F, 15, Kasumigaoka-cho, Shinjuku-ku, Tokyo

(社)日本科教文协会联盟 ((社)日本ユネスコ協会連盟)

National Federation of UNESCO Associations in Japan

Shinjuku Center Bldg., 38F, 1-25-1, Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo

(財)日本青年旅館協会 ((財)日本ユース・ホテル協会)  
Japan Youth Hostels, Inc.  
Hokenkaikan, 1-2, Ichigaya Sadohara-cho, Shinjuku-ku, Tokyo

(財)日本友愛青年協会 ((財)日本友愛青年協会)  
Yuai Youth Association  
1-7-1 Otowa, Bunkyo-ku, Tokyo

(財)国際協力サービスセンター ((財)国際協力サービス・センター)  
International Cooperation Service Center (ICSC)  
Headquarter  
Economic Cooperation Center Bldg., Annex, 42, Ichigaya Honmura-cho, Shinjuku-ku, Tokyo  
International Exchanges Department  
Hassi Bldg., 3F, 6-8 Katamachi Shinjuku-ku Tokyo

早稲田大学国際交流センター (早稲田大学国際交流センター)  
Waseda University International Center  
1-6-1 Nishi-Waseda, Shinjuku-ku Tokyo

日本武道館 (日本武道館)  
Nippon Budokan  
2-3 Kitanomaru-Koen, Chiyodaku, Tokyo

